

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/4/12(月) 11:00～12:45
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川技師、 坂田技師、石山技師	[日本総合研究所](以下、JRI) []記)		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- ・ (自己紹介)

2. 今年度業務の進め方について

- ・ このままでよい。ただし、文化庁との調整や府内調整状況に応じて柔軟にスケジュールを修正しつつ、臨みたい。

3. 公募スキームの修正

- ・ バリアフリー協議会について、協議期間中のみの会議体でよいのか。
 - 20年度業務では、そのように位置付けたが、あり方について意見をもらいつつ、反映したい。(JRI)
- ・ 技術公募期間中のワークショップについては、参加者の技術を報告するのは、事務局でよいか。
 - ご認識のとおり。(JRI)
 - そこで得られたコメントについて、参加者にフィードバックは行わないのか。
 - 技術対話にてフィードバックすることになる。(JRI)
- ・ 次週の打合せにて、公募資料の修正方針案を具体的に提示するので、そこでまた議論をしたい。(JRI)

4. 許認可制度調査

- ・ 12日週中に資料を一般財団法人日本建築センター（以下、BCJ）に展開したい。P34の梁の間を抜けていくことができるものが最低要件と提示してはどうか。資料を早々に準備して、提示いただきたい。
 - BCJの都合が合えば、23日のBCJ昇降設備委員会までのタイミングで、顔合わせも兼ねて打合せをセットできるよう調整いただきたい。
 - なお、BCJ []とは、前任主幹からの引継ぎ挨拶も兼ねて、23日委員会への対応の検討を進めている旨、(梅田主幹より)一度返信している。

5. その他

- ・ 竹中工務店とのやり取りについては、今後、契約関係の調整は市の方で進めていく想定。
- ・ 本日夕方に局内で天守閣全体の進め方について諮る予定。また、文化庁についても必要に応じて協議を行う。
- ・ 次回打合せは4月15日（木）9時15分から10時でBCJ向けの資料の確認を行う。

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/4/15(木) 9:15~10:10
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者		特段断りがない限り、名古屋市の発言	
[名古屋市] 梅田主幹、金子主査、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記]		

1. 許認可制度調査

- 名古屋城に求められる昇降設備の最低要件（乗車人数、仕様、動力など）1／2について
は、史実に忠実な箇所を最初に持ってきてほしい。
- 名古屋城に求められる昇降設備の最低要件（乗車人数、仕様、動力など）2／2について
は搬送能力等の障害者団体からの要望についても記載してほしい。
- 参考のイメージパースについては、史実に忠実の参考資料として順序を構成してほしい。
- 任意評定検討の進め方については、一般財団法人日本建築センター（以下、BCJ）からの要
望事項にはなかったが、資料として必要か。

- 3月24日のBCJ打合せ、3月26日昇降設備委員会にもBCJ [] 宛に提示したもの
である点と、この進め方についての議論を行っていただきたいため、提示はしたい。
(JRI)
- 今回打合せを受けて、修正版資料を4月15日中に市に送付する。翌16日にはBCJ []
に送付できると望ましい。
 - BCJ [] には、市から一報入れる。資料送付を市が行うのか、JRIが行うのかにつ
いては、そのやり取り次第で判断したい。

2. その他

- 次回打合せは4月22日（木）9時30分から11時にて行う。

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/4/22(木) 15:30~17:00
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市]	[日本総合研究所](以下、JRI)		
梅田主観、高橋主幹、早川技師、坂田技師	[REDACTED] 記)		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 情報共有

- 一般財団法人日本建築センター（以下、BCJ）から特段連絡は来ていない。1週間後にフィードバックが来る予定であり、その方針を基に市・JRIで議論し竹中工務店とも共有する。
- 今年1月にBCJと名古屋市で打合せを持った際に、1階層4m以上、階をまたぐ場合、段差解消機としてではなく、乗用エレベーターの扱いになることをBCJ部長が発言していた。
 - 部長の発言を踏まえ、段差解消機としてではなく乗用エレベーターとしてとらえた場合、要素として何が不足するかの検討はまだできていない。（JRI）
 - ❖ 吹き抜けの場合は段差解消機として扱うこともできると言っていたが、今回の名古屋城での適用はできない。
 - そのような検討になることも留意しておいてほしい。
- 段差解消機含めその他技術のチェックリスト作成はこれから作業となる。（JRI）
 - 今年度の業務で、有望技術のあたりをつけたうえで、チェックリストの作成を進める認識でいる。チェックリスト作成は安井建築設計との再委託契約後の作業となる。安井建築設計との再委託契約手続きは早急に進める。（JRI）
 - 技術を導入する際に、当該技術を設置できる法的・技術的な見込みを公募前に持つておきたいという趣旨からチェックリストの作成をお願いしている。逆に、名古屋城に設置することはできない技術を把握したいという意味も含めている。
 - まずは公募資料の方向性を定めたうえで、上記チェックリストに関する作業も安井と協力しつつ進めていく。公募が始まる前には明らかにしておくべき部分と認識している。（JRI）
- 5月下旬までに公募資料の修正を行う。並行してヒアリングを進めるスケジュールを想定している。（JRI）
 - BCJからのフィードバックは要求水準に関係する部分と想定している。公募資料作成はそのフィードバックとは別途進める予定である。（JRI）
- 評価員・技術相談員に現在の検討状況をお伝えすることはできていない。今後共有を図っていく。

2. 公募資料修正方針

- 公募要項の最新版を共有してほしい。（JRI）
 - 昨年7月のものが最終修正版だったように記憶している。今回の会議用に共有したものを見直し、最終版として今後修正をかけていく。（JRI）
 - 部門分けの図について、部門制が廃止になったのでこの図は差し替えたほうが良いかもしれない。ただ、技術の例示はすることになるので結局同じような図を入れることになるかもしれない。今は答えが出ない。
 - ❖ 残した案で修正をかけ、そのバージョンで改めてご相談する。（JRI）
- 「頑張ったで賞」のようなものの導入を検討したい。次回パワーポイントベースでご相談する。（JRI）
 - 協賛団体や評価員などからの「審査員特別賞」的な立て付けにすることも考えていただきたい。また、賞金については、検討する意義は認めるものの実際に予算を確保して市

から捻出することは難しい。

- 期間の説明等は考えられるものはあまり悩まず、すべて入れ込んだ形で案を作成頂たい。
 - 参加者が対応すべきことが明確に分かるような文章・構成にしてほしい。特に協議期間の部分はわかりづらくなることが想定される。
 - 1次審査と最終審査は少なくとも統合される認識である。
 - 「協議期間」の説明は「2.」で頭出しし、「5.」の審査後の流れの部分で詳述するイメージでいる。(JRI)
- 補助金については削除する。その部分に、実用化開発契約、導入（設置等）契約の内容を書きこんでいく。
 - 「実用化開発契約」部分も2.で頭出しをする。審査、協議、契約の頭出しをし、全体の流れを把握頂けるようにする。そして後段で詳述がされている構成で作成したい。(JRI)
- 公募要項5.については、「最終審査」ではなく、「審査」になる。本編資料のP20は審査のイメージ図である。
 - 5-3審査手順についてのイメージはあってい。コロナをうけてオンラインで実施するということであれば、審査員の日程の融通はきくと想定される。

3. 許認可制度調査

- (1. 情報共有のとおり。BCJからの連絡待ち。)

4. その他

- 次回打合せは連休明けの5月6日（木）9時30分から11時にて行う。

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/5/6(木) 9:30~11:30
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、早川技師、坂田技師 (金子主査途中参加)	[日本総合研究所](以下、JRI) [安井建築設計事務所](以下、安井)		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 公募資料修正方針（公募要項）

- ・ 技術公募に関する説明の機会については、説明会、技術相談、ワークショップ、技術対話の4回という認識で相違ないか。(JRI)
 - その認識である。ただし、最優秀者選定後に最優秀者を交えたバリアフリー協議会を開催する予定である。ワークショップと内容が重複するところもあるので、位置づけを整理する必要があるだろう。また、ワークショップで一部の関係者だけから話を聞いたと思われるのも望ましくない。ワークショップを開催するのであれば、市から障害者団体に対して網羅的に働きかけて抜け漏れがないように工夫する必要がある。
 - 位置づけとしては、ワークショップは技術公募期間中に行われるもので、参加者の応募技術の状況に基づき公募の条件を広く浅く聴取するものであり、バリアフリー協議会は最優秀者の提案技術に対して、に具体的な意見交換をする場と考えている。(JRI)
- ・ 階段体験館の使用については、申請があった場合には認める、というような位置づけが良いだろう。必須条件とするのは望ましくない。また、評価が偏ったり、実際の使用スケジュールについては十分に検討する必要があるだろう。(JRI)
 - 了解した。
- ・ 安全性検証のチェックリストは完成しているのか。
 - 未完了のはずである。技術公募開始までに詰める想定である。(JRI)
- ・ 様式類の番号に矛盾がある。整理すること。
 - 了解した。様式集の検討に際して、修正していく。(JRI)
- ・ 協議期間中の主な会議体において、契約候補者は全てに参加するのか。
 - 全てに参加するという想定である。公募要項にもその旨資料に盛り込むこと。(JRI)
- ・ 最優秀者選定後にも、文化庁から復元許可を得る関係で選定事業者には協力を依頼する必要がある。その旨公募資料に記載すること。
 - 非常時の避難についてどのような考え方か。並行して進んでいる他の部会にも協力を得る必要があるだろう。
 - 非常時の避難についても今回の公募の条件にするのは難しいと考えている。あくまでバリアフリー対応に留めたいということで竹中や安井とは整理を行っている。(JRI)
 - その内容で建築審査会を通すことができるのならば、問題ないだろう。他の部会にも了解が取れているのか。
 - 未了である。(JRI)
- ・ 最優秀者選定後に、選定事業者には概算見積もりを依頼したい。9月市会に間に合わせたいので7月頃には受け取りたいと考えている。その旨公募資料に盛り込むこと。

- 技術公募における書類提出時点で概算見積は提出済である。その後、見積に変更が生じるならば、提出を求める必要がある認識。(JRI)
- 了解した。庁内でも上記要否について、検討する。
- 昇降設備の場合、安全認証のデッドラインはどこになるのか。
 - 建築物に付加する技術もしない技術も建築審査会までには必要になるだろう。(JRI)
- 最優秀事業者の選定後の辞退についてはどのような扱いとすべきと考えているか。(JRI)
 - 市内他事例を見てもいつでも辞められるという性質のものではないと認識している。今後検討を行う。

2. 公募資料修正方針（要求水準）

- 最低要求水準に「1階までの昇降ができること」とあるが、事業者から見て内容のイメージがしづらいのではないか。
 - 書きぶりについては検討する必要があるとの認識である。(JRI)
- 別紙3の位置づけはどのようなものか。
 - 現計画の施設側の計画の諸元を紹介するものになっている。今回最低要求水準で追加した「※」以下の内容についてはそちらにまとめることも検討している。(JRI)
- 名古屋市の消防では、機械に使用する潤滑油のようなものも「危険物」として扱っている。書き方について検討する必要があるだろう。
- 「5年間サポート」の根拠は何か。
 - 一般的に製品のサポート期間は5年が一般的なのでそれに揃えた形である。(JRI)

3. 公募資料修正方針（その他公募スキームに係る検討事項など）

- 表彰制度について、案A～Cの内容は理解した。庁内で検討する。
- 説明会、技術対話の詳細検討については、庁内で資料を確認してフィードバックする。
- ヒアリングについてのリスト、事業概要書については、庁内確認が間に合わないため、次回定例打合せにて提示資料を説明してほしい。
- 公募時期にどうなっているかはわからないが、現在新型コロナウイルスの影響で海外の事業者の来日が難しくなっている。何か対応策はないか。
 - 市側で国内メーカーとのマッチング支援等ができるとよいかもしない。今後の検討課題とする。(JRI)
- 契約を2段階に分けていますが、地方公共団体では指定部分完了という考え方もある。そちらで対応できる可能性もある。今後検討を行う。

4. 許認可制度調査

- 次回の昇降設備委員会のタイミングは把握しているか。(JRI)
 - あるとすれば5月下旬だろう。確認する必要がある。
 - 昇降設備委員会からのフィードバックを受けて、公募資料への反映を行う必要があるため、委員会開催タイミングが事業推進のボトルネックになる。確認いただきたい。(JRI)
- BCJの[]からの問い合わせ内容について回答をしているか。(JRI)
 - 評定の審査項目への影響についても判断できていない。回答はまだしていない。
 - 昨年度までの議論で出た話をBCJに報告していないためにこのような連絡があったと認識している。以下の通りである。(安井)

- ① オーセンティシティについて、復元建築においては、可逆性を持った設備であれば問題ないとの認識である。
 - ② EV が歴史的な意匠を阻害するのではないかという意見については、消防設備等同様、意匠的に目立たない場所に設置するといった対応になるだろう。
 - ③ 設置後の維持保全については「史実に忠実な復元」と「バリアフリー」の両立よりも優先順位が低い。
 - ④ 可燃物量の想定については、現状ではまだ天守内に EV 等を設置することを想定していない。事業者が決定した後に詰めていくべき内容だろう。
 - ⑤ EV の事例については、過年度に調査した正確な内容をお伝えするのが良いだろう。
- JRI は回答案を今週中目途に作成すること。

5. その他

- 次回打合せは 5 月 13 日（木）9 時 30 分から 11 時にて行う。

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/5/13(木) 9:30~11:05
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹、早川技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計事務所](以下、安井)		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- BCJ からの質問への回答について、内容の確認をしたい。
 - 「『史実に忠実』な復元のためには、柱や梁などの主架構を変更したり除外しないことが条件と考えています。そのために、『床開口の寸法については 1,500 mm × 1,600 mm(梁の内法有効)を基本とする』『床開口の位置は、各層同じ位置に設けることはできない』が条件となります。』とあるが、これはどういう意味か。
 - 「史実に忠実に」となると、階層ごとに開口部の位置がばらばらになる。昨年、地上から最上階に一貫してではなく、一階層ごとにあがっていけば良いという方針を名古屋市が示している。この方針の決定は非常に重要である。(安井)
- 委員に早めに回答を示し検討時間を設けるべきだろう。検討時間を設けた上で、委員会の場で固まった方針を示していただけるように調整してほしい。(安井)
- 参考資料として、JRI が本業務を受託する前にまとめた資料集がある。ポイントは、城郭が上層部になるほど狭くなることを踏まえると、エレベータを下から上まで通すのは困難であることを示している。また、木造となると尚更エレベータの設置は難しいことを踏まえ、「エレベータ相当のもの」を検討すべきという内容を示す資料となっている。委員会への示し方は要検討である。(安井)
 - 回答案をまとめたパワーポイントから BCJ に返信する。参考資料は質問が来たら追って送付することとする。

2. 公募資料修正方針（公募要項）

- 契約を二つに分けるかどうかは検討中である。メリット・デメリットをまとめてもらえると今後の検討にあたり非常に助かる。
 - メリット・デメリットの整理表は過年度業務で作成しているため、後程送付する。(JRI)
- 以下主な修正・指摘事項を列挙。
 - 全体 指摘の赤字・青字の区別について、赤字が確定的な修正箇所で、青字が現在検討中の内容や備忘的にメモしている内容となっている。
 - P6 募集技術の例を「募集対象」とし、現在の 2-1 は注意事項として整理をする。
 - 火災等への対応について、製品の機能だけでなくオペレーションも含めて対応できることを求めていると記載すべき。「製品」と記載すると「製品そのもので火事等に対応できるものを作成しなければならない」という印象を与えるため、ハードルが上がる。(安井)
 - 「製品」ではなく、「対応できること」を求めることがある。

- P6 下部 「追加提案」について、別途提案を求めるというよりは、現行の記載の方針のように大括りで募集をかけ、公募の結果を踏まえて柔軟に採用する技術を検討できる体制とすべきだろう。公募の結果有力な複数事業者の目星をつけ、複数の技術を組み合わせて上層階まで登れるような技術を調達できれば良いと考えるのであれば、そのような立て付けの方が望ましい。(JRI)
 - ◆ 内部でも何社か選ぶのはどうかという意見があった。ただ、今のところ一者を選定することとなっているため、悩ましい。ただ、逆に契約する金額と採用する技術の対応関係のイメージを持てていない。
 - ◆ 技術提案次第だが、金額に見合った技術であることを理解できるようにしておくことは重要である。大まかな金額を想定しておき、最終的に複数の技術を選考することもあり得る。(JRI)
 - P7 地上～5階の建築物で高さは31mであることが分かることは示しつつ、イメージの示し方は検討すべきだろうと思っている。
 - P9 第一段階の概算見積もりは、協議期間の契約条件初版と同じタイミングで提出を求める。
 - P10 ワークショップについて、技術概要は原則公開とすべきだろう。というのも、ワークショップの参加者に秘密保持求めるのは難しいと考えたためである。また、どのような技術が出てきたかをお披露目する意義もあると考えている。
 - ◆ 承知した。今回は1次・最終の分けもないので、技術概要について公表を行う。(JRI)
 - P12 評価員のうち、田中先生については変更可能性がある。
 - ◆ 評価員の一覧を氏名まで載せる必要があるかは個人情報保護等の視点から、今後要検討である。専門分野は必要と思うが、名前までは不要かもしれない。
 - P23 「必要となる資格時期一覧」の参加表明の要件は修正をかける。過年度とは異なり、参加表明時点から必要となる資格を明確に定めることとする。
 - その他 「木造天守」、「木造天守閣」の使い分けを注意してほしい。立て直す対象としては、「木造天守」とすることが別会議にて決まっているはずである。(安井)
 - ◆ その使い分けはまだ明確には決まっていないという認識だった。決まり次第、提示する。
 - その他 「竹中工務店」の応募は基本的には認めないものと考えるべき。公募要項上に記載するかは今後検討する。
- 本日確認した修正内容を反映させたうえで、再度 JRI から送付する。そのバージョンで改めて確認をお願いしたい。(JRI)

3. 公募資料修正方針（公募要項別紙3）

- 「5. 防災」の箇所は竹中工務店にも確認する必要がある。

4. 公募資料修正方針（要求水準）

- P3 「最上階」ではなく、「上階」とし、最上階に行けることはあくまで加点要素としてはどうか。

5. 公募資料修正方針（その他公募スキームの修正）

- 表彰制度は、「技術相談員による特別賞」を準備するのが良いのではないか。公募では採用されなかったものの、技術的に革新性があるものを表彰するイメージである。

- 承知した。技術相談員特別賞として次回パワポベースで確認する。(JRI)
- ・ 技術対話の内容は名古屋市にて確認する。

6. ヒアリング

- ・ 市会にて技術公募についての実現可能性について質問を受ける可能性があるため、ヒアリングリストのうち、公募に対応してくれる可能性がある事業者について早急に把握したい。

➤ 過年度業務にて、ヒアリング結果をまとめたエクセルを早急にお送りする。(JRI)

7. 課題棚卸

- ・ 現時点では結論を得ていないが、対応が必要な課題一覧を整理した。毎週、更新・確認を行いたい。次回までに目を通しておいてほしい。(JRI)

8. その他

- ・ 次回打合せは5月19日（水）17時00分から18時30分にて行う。

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/5/19 (水) 17:00~19:30
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹、早川技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記]	[安井建築設計事務所](以下、安井)	

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- BCJ からのフィードバックは特に受けていない。昇降機委員会の開催時期についても新型コロナウィルス感染症の流行により未定ということになっている。
- 公募開始までのタスクスケジュールに関しては理解した。このスケジュールで進めて問題ない。

2. 公募資料の反映方針、及び公募資料修正確認

- 表彰制度に関して、引き続き検討する方向で進めたいと考えている。
- 技術公募における説明会については、今後の検討課題としたい。
 - 了解した。急ぎ決断する必要がある事柄ではない。(JRI)
- 技術対話のフローに関して違和感はない。
- 本事業における契約金額設定については今後ヒアリングを通じて内訳などを確認していく予定である。(JRI)
 - 了解した。
- 募集する技術イメージがまだわかりづらい。一般利用者がどのように移動するのか、どの階にどのような技術が必要なのかがわかりやすい資料としてほしい。
 - 細かな動線等に関しては、別紙で整理することも考えられる。技術の組み合わせの仕方を例示すること等も考えられるだろう。
 - 模式図を追加して、移動動線の考え方をわかりやすくしてやるのが良いだろう。
- クラウドファンディングに関しては、市を経由しない形で実施可能ならば理想である。そのような方法で開催可能なのか一度 CF 事業者に打診してみる予定である。(JRI)
 - 名古屋市を介さないという場合、どういう位置づけになるのか。(安井)
 - CF の採用は市として認めるが、資金は経由しないという位置づけになる。
- 階段体験館はコロナで閉館しているということだったが、映像撮影には活用できるのか。
 - 市民向けには使用できないが、映像撮影には利用して問題ないだろう。
- 資料全体の表記ゆれ（天守・天守閣）について、市から方針をいただき、それに合わせる形で整えていくものとする。(JRI)
- 導入技術の重量については、事業者へのヒアリングの際に聴取し把握するようにしておきたい。竹中との協議において重要な要素になるだろう。
- 審査基準について、配点において「史実に忠実」に関する項目が軽視されているのは気にある。「バリアフリー」との両輪で評価は重視していきたい。

- 配点よりも審査基準をまずは検討すべきだろう。
 - 次回審査基準の修正案及び配点表を持参する。(JRI)
- 過年度に想定していた審査は一次審査と最終審査に分かれていた。今回検討している審査は過年度の一次審査と最終審査のどちらに近いのか。
 - 一次審査に近いという認識である。(JRI)
 - であれば、新しい審査基準では一次審査で審査する項目の比重を高くすべきだろう。
- ヒアリング候補について、サイバースロンとスイス大使館も追加する予定である。(JRI)
- 「空飛ぶ車」についても昨今の規制緩和の影響で実現性が出てきた。ヒアリング先に追加することを考えているがどうか。(JRI)
 - これまでヒアリングしてきた意欲の高い事業者に比べると劣後するが、追加することは問題ないだろう。
- 技術相談は参加表明書の提出者のみを対象とすることによいか。(JRI)
 - その方向でよい。
- 公募要領 P18 の実用化期間について、建築設備に該当しない安全認証とは ISO 等を想定していると考えてよいか。
 - ISO や JIS が定められているのであれば、それらを取得することを想定している。(JRI)
- 公募要領でいう事務局とは、竹中工務店も含むのか。(安井)
 - 事務局には竹中工務店自体は含まないが、適宜相談することになるだろう。(JRI)
 - 技術相談員の中には竹中工務店も含まれるということになるのではないか。(安井)
 - 相談はするが、直接の窓口にはならないという認識である。
- 公募要領 P6 の事例について、組み合わせて提出することも考えられるが、明記しなくてよいか。
 - 基本的には事業者側から組み合せた提案はないとの認識である。組み合わせることで有効な技術があれば、市側で組み合せるのがよいだろう。(JRI)
- どのような技術を採用するにせよ、竹中との協議が必要になるだろう。あらかじめどこかで整理する必要があり、竹中との覚書のようなものを作成する必要があるだろう。(JRI)
 - 同様の認識である。
 - 重要な検討課題との認識である。今後詰めて検討を行う。(JRI)

3. 許認可制度調査

- (特になし)

4. ヒアリング

- 海外の事業者に対して、日本での活動実績についても確認したい。設備のメンテナンスの観点から把握したい。

5. 課題棚卸

- 5月末ごろに契約管理課と打ち合わせをする予定である。個人情報の取り扱いについても確認しておく。
- 高齢者への意見の確認に関しては庁内で確認・調整を行う。
- コロナ禍の中でステップ名古屋はどうなっているのか。(JRI)
 - 現在休館している。

- ・ 契約名称に関しては、一度持ち帰って検討を行う。
- ・ 建築審査会に関しては、評定の結果によりある程度、影響を受けるとの認識はある。 庁内で適宜確認を行う。
- ・ BCJ の担当者から回答を確実に受け取れるのか。回答によらずに竹中等と協議し、検討を進めていくのがよいだろう。(安井)
 - 明日、竹中との定例があるので、そこで隨時協議を進めていく旨伝えておく
 - JRI から会議の設定等を行う予定ので、その旨共有いただきたい。(JRI)

6. その他

- ・ 次回開催に関しては問題ないが、6月2日（水）については日程を改めたい。
 - 6月3日（木）の15時から16時半で開催する。(JRI)

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/5/28 (金) 17:30～19:15
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計事務所](以下、安井)		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- ・ (特になし)

2. 公募資料の反映方針、及び公募資料修正確認

- ・ シンポジウム登壇者で望ましい人物はいるか。(JRI)
 - 歴史的建造物にバリアフリー技術を入れることに対して、積極的な有識者を入れられるのがよいだろう。
 - 次回までに候補者のリストを作成することを検討している。(JRI)
- ・ クラウドファンディング等を市の立場で支援するというのは公平性の観点から難しいと考えている。契約管理課からもその旨意見を賜っている。
 - 公的な性格を有する団体等についてはHPからリンクを張るなどの対応ができるとよいだろう。(JRI)
- ・ 最優秀者を選定し、それを補完する事業者についても選定する場合、補完する提案を選定する基準についてもあらかじめ検討する必要があるのではないか。
 - 非常に難しい課題と認識している。募集方法や選定方法について次週までに検討課題を棚卸しするので、来週の定例で打ち合わせをしたいと考えている。(JRI)
 - 複数の技術を組み合わせることで利用者の利便性が落ちてしまっては問題である。そちらの視点も重要である。
- ・ 階段を使用する技術については、実演させることだが必要なのか。(安井)
 - 審査員の目線で見れば実演させてみるのがわかりやすいだろう。(JRI)
 - 階段を使用しない技術については、どう扱うのか。(安井)
 - 既製品等の類似した製品の動画やパネル等で説明することになるだろう。(JRI)
 - アイディアレベルの提案が排除されないような審査方法にしなければならないだろう。(安井)
 - 了解した。書きぶりを再度検討する。(JRI)
- ・ 情報公開が可能であることについて、審査において公開が前提となった以上、審査項目に加える必要はないとの理解だが相違ないか。(JRI)
 - 問題ないだろう。出せる情報量の差で差をつける意味はない。ただし公募要領等においては、公開の旨別途記載する必要があるだろう。
- ・ バリアフリーに関する配点が大きすぎるという懸念がある。市が重視するポイントが明確に示されるような配点となるように検討が必要だろう。審査区分ごとの配点を改めて検討したいと考えている。(JRI)

- 「バリアフリー」と「史実に忠実」の2点を重視したいと考えている。中でも「バリアフリー」が最も比重が大きくなるべきとの考えだが、現状「史実に忠実」の配点が小さすぎると考えている。この他には「安全性」の配点比重についてもより高くしたいと考えている。
- 技術同士の組み合わせが前提となった以上、2億円を事業者間で分け合う形になる。必然的に、価格点の重要性が高くなる。配点割合について調整する必要があるだろう。
- 価格点の合計についてはキリがよい数字に変更しても問題ないか。(JRI)
 - 作業に支障がないならキリのよい数字に変更するのが良いだろう。
 - 了解した。1,000点などキリの良い数字を目安に調整する。(JRI)
- 審査における同意書についてはまとめる想定である。(JRI)
 - 試作段階で発生するケガなどに関しても責任を市として取ることはできない。同意書はまとめてよい。

3. 許認可制度調査

- (特になし)

4. ヒアリング

- (特になし)

5. 課題棚卸

- (特になし)

6. その他

- 次回打合せは6月3日(木)15時半から17時で実施する。
- 技術相談員等の人選理由と経緯について、あらためて教えていただきたいが可能か。
 - 了解した。(JRI)

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/6/3 (木) 15:30～16:35
目的	打合せ	場所	WEB会議

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- ・ (特になし)

2. 公募資料の反映方針、及び公募資料修正確認

(採用枠と金額についての検討について)

- ・ A (採用枠=例) の考え方は、昨年度まで検討していた「部門分け」に戻ってしまう印象がある。序的に複数技術に対応することのハードルが高く懸念を感じる。採用額を3つの枠で割り振る処理が難しいかもしれない。
- ・ 3つの枠すべてが埋まることで、本事業の趣旨が達成されるという考え方立つ場合、すべての枠で技術を採用することが求められる。(JRI)
- ・ 「地上から一階の技術」は提案のハードルが高く、良い提案がでてくるか懸念される。また、天守外壁に穴を開ける必要があり、竹中工務店の意見も聞くべき枠と感じた。(安井)
 - 竹中とは同技術が部門として存在していた19年度業務での打合せで提示しているが、竹中との打合せで改めて確認したい。また、スーパー・デッキのような技術については、対応可能である旨を、今般の事業者ヒアリングで確認している。(JRI)
- ・ 「採用に値しない技術案」一社のみが提案された場合、その事業者を排除することはできるのかが気になる。また、審査基準について、採用枠間の技術の組み合わせを踏まえて採用する技術を決定するのか、採用枠ごとに最高得点をとった提案者を採用するのかも気になっている。
 - 頂いた懸念等も踏まえ、今回示した「例と採用枠／条件を分ける、書類受付時点での見積をもとに金額割り振りをする」案に従って運営した場合のシナリオ及び課題点と対応方針をまとめた資料を次回以降提示する。他に気になる点あれば、打合せまでに連絡いただきたい。(JRI)

(審査基準)

- ・ (配点についての修正内容を JRI より説明。) 前回議論を踏まえた配点になっている印象である。市内部で詳細を検討の上で回答をする。

(「史実に忠実」の定義について)

- ・ エレベータを付ける前提に立った際、木造天守閣になじむ外観と、復元作業とは別に設置されたと明確に分かる仕様のいずれが望ましいか。
 - まず、文化財の場合、「可逆性のあること」という言い方が一般的である。「復元可能性」はあまり聞かない。(安井)
 - この論点は名古屋工業大学名誉教授・麓先生等のご意見を聞いたほうが良い部分と思

う。ヒアリング等を通じて学術的な観点を確認すべき。(安井)

- 麓先生に伺うにあたり、天守閣部会等、名古屋城総合事務所内部での調整も必要になる。市内部にて、麓先生に確認する論点・課題等をまとめた上で伺うことにする。

(要項別紙3修正)

- (修正内容をJRIより説明。) BCJからのコメントバックも踏まえつつ、竹中工務店と内容を相談しながら文章を詰めていきたい。(JRI)
- 大筋、わかりやすい文章になったという印象である。(安井)
- 中身を確認したうえで返答する。「床荷重は消してもいいのではないか」というコメントがあるが、応募者が気にする部分なので何かしら記載をすべきだろう。
- この床荷重の記載の位置づけを追記すべきと考える。例えば、ここで示す耐荷重はあくまで「目安」であることを示すことも一案である。(安井)

(他資料修正)

- 公募要項、審査基準、別紙3、様式集について、可能なら、それぞれ次回定例までに確認し、フィードバックいただきたい。(JRI)

3. その他

- 次回定例会議は、6月9日(水)0930～の開催とする。

- 次回以降は、水曜午前中の定例開催を基本とする。

◆ ()は月に一回程度、参加できないことはご了承を頂きたい。16日について
は、都合がつかない。(安井)

◆ 別途調整する。(JRI)

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/6/9 (水) 9:30~11:20
目的	打合せ	場所	WEB会議

出席者

[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、坂田技師 早川技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計事務所](以下、安井) [記]
---------------------------------------	---

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 6月2日にBCJで昇降設備委員会があり、委員からのコメントを受領している。
- 契約管理課と協議を行ったところ、以下の3点について指摘があった。
 - ① 公募の内容に、物品の購入と工事請負の二つが含まれている。この形式に法的な根拠はあるのか。国交省の技術提案交渉方式に対するガイドライン資料や公共工事の促進に関する法律に基づいて工事請負は進めているが、物品購入となると準拠すべき法規制が異なる。また物品の購入に関してはそもそも性能発注ではなく、仕様発注にすべきという理解である。
 - ② 天守の竣工タイミングまでに選定技術が陳腐化する可能性があるのではないか。
 - ③ 終了後支払いの形式とする以上、天守事業が中断・中止された場合に訴訟リスクがあるのではないか。
- ▶ 公募資料のリーガルチェックは公募資料が概ね定まった段階で依頼する想定である。
(JRI)

2. 公募資料の反映方針、及び公募資料修正確認

(複数技術採用について)

- 複数採用枠について、いろいろ検討してもらっているが、公正公平に進めることが重要である。採用枠ごとの金額の上限額を定める場合、恣意的な操作が入ってしまうのが気になる。最優秀者を1社選定し、不足する技術があるようであれば、匿名随契や再公募を行うような立て付けを考えている。
 - ▶ 複数技術の採用ができない場合、とりわけ垂直昇降装置以外で参加意欲を下げる事業者が出ることが懸念されるので、その点は留意いただきたい。また、最上階の構造・防災・避難上の特長により、複数技術の組合せによって、「新技術の開発などを通じてバリアフリーの実現に最善の努力をする」という付加設備の方針を実現できなくなる懸念もある。(JRI)
- 天守に備え付けとなる設備の場合、天守の工事開始に先立って公募を行う意義はあるが、パワードスツツなどの物品・装置であれば、天守の竣工タイミングで公募すればよいとの意見もある。
 - ▶ 事業者からも、公募から竣工までの期間に技術が陳腐化してしまうという意見はある。
(JRI)
- 公募にあたっては、幅広く提案を求め複数提案を採用するパターン、幅広く提案を求め1つのみ採用して、複数技術については再公募・随意契約するパターン、技術例を予め絞って公募し、後に再公募するパターン等が考えられるだろう。(JRI)

- 技術例を絞って公募するというのは、これまでの検討プロセスに逆行することになるので難しいだろう。
- 複数技術の採用に関して、国際公募として成立が難しくなるという懸念もあるため、改めて府内にて検討を行う。
 - 公募資料の修正については、複数技術の採用を行う旨は現状のまま残しつつ、検討を行っている旨をコメント記載したうえで、一旦は保留とし、他の箇所の修正を進めること。

(契約金額の対象について)

- B工事が発生し、その工費の負担が課題になるだろうというのは了解した。検討を行う。
- 契約締結者が技術公募期間や協議期間などの締結前に行った開発行為や説明のための交通費等については、昇降技術開発契約に含めてもよいのではないか。(JRI)
 - 違和感ない。開発行為が発生したら、何らかの形で支払いを行う必要性を認識していたところであり、その点から、補助金についての検討もありうると考えていたところ。

(協議期間について)

- 契約協議の期間は1年間確保したのは、議会案件になることを考慮したためである。各所に確認したところ、議会案件にはなりそうにないということが分かった。契約協議期間には、業務が発生するので、昇降技術開発契約に含めるべきと考えている。
 - また、契約管理課からの指摘で、契約関係にならないまま1年間もの協議期間を設ける点について、辞退等のリスクも含めて疑義を提示されている。
 - 協議期間が1年間も続くことについては、事業者側にとっては、厳しい条件だと認識していたところである。一方で、協議期間を設けた理由としては、「高齢者、障害者等の参画の下必要な検討が行われるよう、必要な措置を講ずること」という衆参両院の附帯決議を受けての契約前の協議段階で設けた枠組みだと以前の貴市説明から認識しているが、そのプロセスを省略して問題ないのか。(JRI)
 - ワークショップ対応等については、基本協定を結び、事業者の立場を確保した上で協力を依頼するということも考えられる。(JRI)
 - 協議期間のあり方についても府内で改めて検討を行う。
 - もし次回打合せまでに検討が終了しないようならば、JRIから協議期間のあり方について論点整理した資料を提示する。(JRI)

(BCJの対応について)

- 市でも回答案を作成してみたのだが、そもそもBCJと前提認識がズれているのではないかと感じた。
 - 認識の通り。質疑に上がってきた事項は我々の方で既に検討した内容である。委員からの各コメントに対して回答を行っても、前提認識のズレは解消しないため、委員に対して直接伺って説明するようなことを検討する必要があるだろう。(安井)
 - 緊急事態宣言が明けた段階でBCJまで直接往訪し説明することを検討する。

(審査基準について)

- No.5とNo.13の内容がかぶっているがどのような違いがあるのか。
 - こちらのチェック漏れである。統合する。(JRI)
- No.14の記載の仕方が、最低要求水準のような書きぶりになっているのが気になる。修正す

ること。

- ・価格評価について、相対評価にしてはどうかと考えている。その方が価格競争が働くのではないかと考えている。
- ・No. 18 の実現性の配点は 100 点に変更すること。
- ・バリアフリー（有効性）の項目については、「天守閣の最上階まで上がれること」を除き、全て配点を 20 点にそろえること。
- ・史実に忠実の項目については、配点を 150 点に変更すること。
- ・運用の項目については、各審査項目の配点を 50 点に変更すること。
- ・汎用性の項目については、各審査項目の配点を 10 点に変更すること。
- ・総合の項目については、配点を 70 点に変更すること。

(検討事項リスト)

- ・委員の氏名公表については、委員より公表して問題ないと回答をいただいた。
- ・高齢者団体の意見の吸い上げ方についてだが、府内調整が完了し、実施の目途がたった。各区の老人会に諮っていく予定である。
- ・シンポジウムの登壇者については、名古屋市で選定することを考えている。評価員やバリアフリー協議会に出席する有識者を想定している。
- ・最優秀事業者の辞退について契約管理課に相談したところ、契約締結前の場合は防ぐような措置を講じることはできないとのことだった。一方で契約後は一定の制限を課すことができるとの見解である。

3. その他

- ・次回の定例は 6 月 16 日 9:30 より実施する。(JRI)
➤ 安井からは [] は出席できない。[] のみの出席となる。(安井)

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/6/16 (水) 10:00~11:50
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、坂田技師、 早川技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [安井建築設計事務所](以下、安井)		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 別紙3について、竹中工務店から回答は来たか。防災評定の記載が増えているのでその経緯・背景が気になった。
 - 今週中に回答を頂ける予定である。評定の内容・狙いを詳述する考えに則った修正であると認識している。基本的にはメールのやりとりで修正を進める。必要に応じてミーティングを開催する。(JRI)
- 審査基準等についてバージョン管理のため、公募要項と同様に日付を右上に記載してほしい。

2. 公募資料の反映方針、及び公募資料修正確認

(複数技術採用について)

- 補完的なプランBは現実的、かつ役所的に受け入れやすい枠組みのように感じた。
 - 審査において2月中に1社目の選定がなされるが、3月いっぱいに2次募集の審査・選定を済ませることは可能だろうか。
 - 可能である。2月中旬で最優秀者を選定した後、3月初旬で2次募集の提案書提出締切、中旬で審査・選定となる。(JRI)
- 2次審査は技術対話等のプロセスは用意せず、審査に直接進むものと認識した。
- 2次募集に際して、事業者が開発費用の一部を自費負担する場合、その見積も提示を求めるべきか相談したい。(JRI)
 - その金額を知ったうえで、審査に影響するわけではないため、必須ではないのではないか。
 - 承知した。2次募集の審査に際してだけ自費負担分の記載を求めるという点でも、整合が取れない。(JRI)
- 審査と2次募集の審査基準は同じものになる。(JRI)
- 2次募集をはじめから告知すること、そもそも最優秀者を決める審査に参加しなければ2次募集の審査に参加できないこと、また、参加者が2次募集に応じる際に、提示された新たな契約金額上限に基づき必要に応じて提示見積の調整をする可能性がある事を認識した。
- 令和元年度に部門制の議論をした際に予算当局から相当な反対を受けた。今回も「2次募集」とはしたものの抵抗はあるだろう。
- 2次募集をする理由の整理が必要である。言い換えると、「なぜ1者では不十分なのか」を説明する必要がある。例えば、垂直昇降装置が最上階まで行けない事実があった場合、そ

の理由（構造面、制度面、技術面）を整理し、従って2次募集が必要という流れで整理できると良い。

（協議期間について）

- 感覚的になるが、協議期間1年間は短縮し、半年程度にしたい。一ヶ月程度で説明等に使う資料案の準備をし、会議体・市内の会議に照会をかけ、フィードバックを得るのはおよそ半年程度だろう。
 - 「バリアフリー協議会」は引き続き開催・意見照会する予定である。追加項目としては、文化庁への報告が少なくとも一回必要になる。この会議体が隔月での開催になるのでスケジュールが組みづらい。
 - 文化庁への報告は、協議期間中の各会議体の検討結果を報告することと理解した。
 - 協議期間について、半年+ α 程度の期間を想定しておく。4月は基本協定締結のための期間とし、5月以降から実質的な協議期間とする。（JRI）
- 高齢者・障害者の集いは、「ワークショップ」で代替する。「バリアフリー協議会」は公開の会議であり、障害者団体からは非公開の場が欲しいという意向がある。
 - 承知した。「高齢者の集い」、「障害者の集い」は非公開の「ワークショップ」で代替することとする。（JRI）

（表彰制度について）

- 2次募集を用意した場合、特別賞があるとややこしくなる。追加の表彰制度については保留とする。

（史実に忠実）

- 麓先生への「史実に忠実な」に関する照会は、公募要項を固め次第、意見を伺う予定である。
 - 取り急ぎ、審査基準に可能な範囲で盛り込みを検討する。（JRI）

3. ヒアリングについて

- ヒアリングで得た指摘事項を今後公募内容に反映させる課題としてまとめる予定である。（JRI）
- 平成30年業務で市場調査を実施し、開発・導入に係る費用の試算をしている。ただ、その時点では4社を選ぶ想定であり条件が変わっている。開発費用・導入費用の見積もりを再度検討する必要があると認識している。
 - 整理してお示ししたい。ただ、費用については基本的に2億円の枠内には少なくとも納まっており、G社は超過しているもののスポンサー企業の補填があるため、参加可能性はあると思っている。（JRI）
- ア社の技術は複数台必要ということか。金額の設定は1階層ごとに必要な費用か。
 - 1階層毎に技術が必要になる前提を伝え、金額は各階層をトータルした総額である。（JRI）
 - ヒアリングまとめにおいて、ア社の技術紹介写真として使用している「タラップ」は、同社が応募を検討している垂直昇降の技術とは別物ではないか。
 - 指摘の通り。写真を修正しておく。（JRI）
- 補助員が必要という指摘はどのような背景からか。
 - 費用を積めば補助員についても対応はできるが、名古屋市の運営面の考え方も踏まえつ

つ、価格面含めてどのように提案すれば評価がされるかを気にしての質問と思っている。(JRI)

4. 課題の棚卸

- 評価員・技術相談員について、公募要項の素案を固め次第説明回りを開始する。日程調整は別途進める。

5. その他

- 次回の定例は6月23日(水)9:30より実施する。(JRI)
 - 市会が始まるので日程調整が必要になる可能性があるが、23日開催の前提でお願いしたい。
 - 承知した。もし、開催困難な場合、できればスキップではなくリスクが望ましい。(JRI)

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/6/30 (水) 09:30~11:30
目的	打合せ	場所	WEB 会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、坂田技師、 早川技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計事務所](以下、安井)		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 新聞報道にもあった通り、復元全体の計画にバリアフリー計画が盛り込まれることになった。従って、本事業の公募内容の確定・資料作成はなるべく早く済ませたいと考えている。
 - 一方で、地元・障害者団体との調整を図ったうえで公募を進める必要がある。
 - 従って、公募資料等の準備を早め、関係団体に丁寧に回る期間を確保したい。イメージでは7月中には書類・スキームをまとめきることを目標としたい。
- 評価員会・技術相談員会の日程調整の状況を教えて欲しい。(JRI)
 - 公募要項等をある程度固めてから説明回りをしたいと考えている。また、会議形式はオンラインでの開催を考えている。
- 市の考える公募要項等を固める期限・メールマールを示していただきたい。(JRI)
 - 検討する。数日中に回答する。

2. 公募資料の反映方針、及び公募資料修正確認

(二次募集について)

- 「お金が余ったら二次募集をする」というニュアンスは書き方を工夫する必要がある。
 - 「二次募集」については、「状況によっては実施する可能性がある」程度しか記載できないのではないか。応募者へのアピール・参加者を多く募る観点が弱くなることは理解しているが、市の手続き上、二次募集は一筋縄ではいかない。
 - 市としても一度文案を考える。
 - 状況は承知した。ただ、「公募前の段階では、二次募集を実施する意思があり、資料にも明記した。実際には、諸般の事情により実施はされなかった。」となっても、「やむを得ない」と参加者はとらえるのではないか。応募者への見え方、とらえ方も含めて文案を検討するがある。(JRI)
- 二次審査では、本審査の採用枠以外から採用される認識でっているか。
 - 認識の通りである。(JRI)
 - 仮に、本審査の際に(1)の枠で最優秀者を選定したものの、万が一、4階から最上階に昇降ができない技術であった場合、二次審査の際には(2)か(3)しか採用できなくなる。その場合、4階から最上階には到達できなくなるが、それは仕方ないと考えるか。
 - 二次募集とすることによる懸念点が生じたものと認識している。シナリオを想定しつつ、懸念点をつぶしていきたい。(JRI)

- 「なぜ二次募集をするか」を説明する文言を追記する必要がある。構造上・防災上の観点から、複数技術必要であるという説明が必要である。6月23日定例会議時の安井建築設計の配布資料を基に追記を検討する。また、「木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針」において説明されている内容を要素化し、「本事業の趣旨・目的」を公募参加者・一般の読み手に理解できるような記載をする。記載場所は、「1. 技術公募の目的等」の末とする。

(JRI)

- 「史実に忠実な復元」の意義と、「現在の技術を活用する」ことで補う方向性が分かるような記述が望ましい。(安井)
 - ✧ 承知した。記載案を検討した後、JRIと安井建築設計にてすり合わせの場をもつこととする。(JRI)
- 公募要項p7「(1) 階段を昇降する技術」や「(2) 一階層ごとに垂直昇降する技術」の後ろに付している括弧書きは削除する。また、「(3) 地上から1階に直接入場する技術」は、「1階→1階以上」に修正する。(安井)

(要求水準・別紙3について)

- デザイン・意匠性の扱いについて、天守閣部会で有識者コメントを聞き取り、評価の観点の参考とすることを検討している。「史実に忠実」の審査上の観点についてそこから示唆を得たい。聞き取るタイミングとしては、公募開始後のワークショップと並行したタイミングを検討している。
- 本来は、公募開始時点で事業者に示すのが望ましい。募集後に提案の前提が崩れるのは避けるべきである。ある程度、事務局から意図を示したうえで、細かな内容・観点をワークショップで調整するのが妥当ではないか。具体的には、審査基準の項目レベルは公募前に定め、さらに細かい視点を専門家から聞き取るという立て付けであれば納得感があるだろう。(JRI)

(協議期間について)

- 基本協定を作成・相互確認し、締結するまでの期間とする予定である。期間は3カ月程度と考えている。
- 会議体への説明回りの対応を協議期間に盛り込むかは保留とする。

3. 公募PR映像制作方針について

- 名古屋城再建・バリアフリー技術の導入の趣旨の説明部分には2019年度作成した映像のものから変更があるか。
 - 前半の本事業の趣旨部分はほとんど変更の必要がないと考えている。(JRI)
 - 承知した。2019年度はその部分に時間がかかった印象である。その意味では、納期を短縮できるようにも思うが、難しいか。
 - 9月に公募を開始する前提で、8月末を納期とし、逆算してこのようなスケジュールになっている。納期を調整する相談は可能である。(JRI)

4. 許認可制度調査について

- BCJ往訪について、JRIからは██████████が参加する。安井からは参加者を検討して連絡する。
- 当日は名古屋市から説明を実施し、JRIは補足説明をする。(JRI)
- 竹中工務店は参加可否を確認し、参加可能であれば資料を共有する。

5. 課題棚卸

(公募資料等の英訳について)

- 公募資料の英訳について、全ての資料を英訳する例はほとんど見当たらない。英語化による齟齬を避けリスクヘッジするためにも、基本的な書類の英訳にとどめるべきと考えている。(JRI)
 - 市内部で一度検討してみる。

6. その他

- 次回定例を予定している7月7日(火)は日程の再調整が必要である。
 - 次回は、7月8日(木)11:00-12:30で開催する。

以上

打合せ記録

件名	名古屋城天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/7/15 (木) 09:15~10:40
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 梅田主幹 (10:00 退出)、高橋主幹、金子 主査 (10:30 退出)、坂田技師、早川技師、 石山技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [REDACTED] 記		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. スケジュール変更を受けた詳細プラン

- 市側の府内調整プロセスも盛り込んで日別スケジュールを一旦作成した。適宜、実態に即した府内調整プロセスを記載更新してほしい。(JRI)
- 11月市会終了後に公開会議を行う段取りとなる。
 - 公開の会議は、バリアフリー検討会議、障害者団体連絡会など。
- 8~9月は評価員や技術相談員とバリアフリー検討会議の有識者、障害者団体などと個別協議を行いたい。ストレートに会議体とせずに、8~9月に個別回りをして受け止めておきたい。
- ワークショップについても個別回りで済ます想定だったが、そこで建設的な意見を得られないリスクも懸念しており、あえてワークショップを開催して建設的な意見を引き出していくことも考えられる。
 - まずは、個別回りを行い、その状況に応じて検討をしたい。
- 次回定例会議にて、各会議の目的・実施時期について整理した資料を提示するので、そこで認識を合わせきりたい。(JRI)
- 改正版スケジュールを所与のものとして進めてほしい。
- 8~9月に個別回りを開始したく、7月中には公募資料について、固めていきたい。
 - 現実的なスケジュールとしては、公募の枠組みをしっかりと固めたうえで公募資料の修正に臨むべきではないか。無理なスケジュールを設定して遅延するよりも、あらかじめ余裕を持たせつつ、検討が前に倒れるならば、それにしたがって、各関係者調整に回れば良いのではないか。(JRI)
 - いったん原案のスケジュールで進め、前倒し可能なら行う検討をしたい。(JRI)
 - 公募の準備は課題棚卸リストに尽きる。これを消しこんでいくものにつきる。(JRI)

2. 課題棚卸と公募枠組みの確認

(スケジュール)

- リスケジュールを関係者に共有可能か。(JRI)
 - そのとおり。11月の市議会で確定するが所与の認識で進めるしかない。
 - 竹中はリスケジュールを認識しているのか。市から伝えるか。(JRI)
 - 伝えるより仕方ない。公募開始12月開始の前提として、文化庁からの指摘で木造天守のスケジュールに従ったもの。先日竹中も上層部、安井建築の担当者に伝えている。公募に関してやっていくことは竹中、安井とも認識している。

➤ 承知した。(JRI)

(バリアフリー協議会)

- 審査期間中は「バリアフリー協議会」として実施を想定している。内容趣旨としてはタウンミーティングにしたい。

➤ 承知した。各会議の目的・実施時期の整理対象に含める。(JRI)

(審査期間中の会議体について)

- 審査期間中の会議体からの意見については、あくまで参考意見という位置づけでよいか。審査基準を変えるわけにはいかないと考えている。(JRI)

➤ 過去のワークショップの成果を踏まえて取り纏めて評価の参考資料にする想定。

➤ 個別意見がでたことを技術評価員、評価員に伝える、参加者にも技術対話を通じてフィードバックする、ということで承知した。(JRI)

(天守閣部会)

- 天守閣部会などの有識者会議については、公募直前の全体整備検討会議で行いたい。全体整備検討会議は天守閣部会の親の会議にあたるので、そこでコメントをもらいたい。

(採用枠)

- 最優秀者は1者を決めるのか。補完的採用はどうとらえるか。(JRI)

➤ 公募は1者とする予定。公募の中でもう1者というのは難しいというのが府内調整の中で感じている。

➤ 府内調整の難しさは理解できるが、補完的採用がありきと考えていたので公募から外すと、参加者がなくなり、EV技術のみになるリスクがある。

➤ そこは仕方がないと考えている。(市)

➤ であれば追加ヒアリングをする意味はあるのか。国際公募として多くの参加者を確保し、多様な技術の採用についても必要性を認識していると昨日うかがったが問題ないか。(JRI)

➤ 内部で調整する。(市)

➤ ここはボトルネックになっており公募要領の改訂が進められない。(JRI)

➤ 公募要項上は1者しかない、という考え方である。そうせざるを得ない理由もある。やりたいこととできることで両方100%満たすのが難しい。

➤ 議論が必要と考える。次回定例会議で、理由の整理を含めて時間をとりたい。もともと補完的な技術の採用の可能性がある、という表現でござっていた。余地を残した表現で希望をもたせながらやるテクニックもありえる。うまい落としどころを探るやり方があると考える。また、竹中との議論の中で、1社のみ採用が不調となったときの再公募となったときの長期化リスクを懸念している。また、随意契約等で採用する場合は、その正当性についてのリスクを懸念している。(JRI)

(資料英訳)

- 昇降技術開発契約や昇降技術導入契約などの契約書も英訳するとなると誤訳にかかるリスクを市が背負うことになる。であれば日本語でよいのではないか。(JRI)

➤ 公募資料については英訳が必要というのが調整済だが、開発契約の英訳までは議論できていない。日本語で良いのではないか。(市)

➤ いったん、契約書は日本語のみとする方針で進める。なお、係争時には、名古屋地方裁判所の所管となる認識である。(JRI)

- 公募資料の英訳全訳について調整済とのことだが、市が英訳のリスクをとる、ということか。たとえば、英語ではこう書いてあるが、日本語が優先するので、ということのやりとりをするということか。(JRI)

- 英語、日本語の文面双方に、日本語を優先する、と公募要項に記載している。(市)
- 公募資料の全英訳が所与のことのように市から主張されているが、公募資料の全英語化は聞いたことがない。市内部で改めて検討してほしい。(JRI)

(協議期間中のスケジュール)

- 記載のとおり、基本協定案を作成・提示して、基本協定を締結のうえ、協議に臨む流れで良い。

(協議期間中に行われる会議体)

- バリアフリー検討会議、全体整備検討会議の各会議体としては、意見をもらう、あるいは、協議を行う場ではなく、技術公募について報告する場として位置付けている。
 - なお、全体整備検討会議は、名古屋城全体整備の有識者会議。木造天守にかかる報告が必要という程度。
- 昇降技術開発契約や昇降技術導入契約については議決事項ではない。一方で、契約金額や補助金等についての予算措置は議会承認が必要。
 - 上記の予算措置については、来年度の11月市会になるか。(J)
 - おそらく11月市会で来年度予算が決まる。(市)

(評価員会・技術相談員会)

- 8~9月については、個別回りから開始する。

(バリアフリー検討会議)

- 8~9月については、個別回りから開始する。

(マッチング)

- マッチング支援は行わない。

(審査用映像の事務局側での編集可否)

- 事務局側での映像編集はしないほうが良いと考える。長さなどの編集がありえるが、公募要項上で規定しておく必要がある。審査用に編集するのはリスクを負うことになる。
(JRI)

➤ 特に編集する意図はない。

➤ 承知した。(JRI)

(ステップなごや運用、審査(安全性検証チェックリスト))

- 次回定例会議までに検討をお願いする。(JRI)

(要求水準(達成状況の事務局での判定))

- 最低要求水準で書類審査でのバリアフリーにおける最低要求水準は難しいと認識。ただし一部について竹中、B C J のコメントで判別がつくところもあるかもしれない。審査ではチェックリスト等での確認を想定している。次回定例会議で改めて確認したい。(JRI)

(要求水準(史実に忠実の定義))

- 麓先生に個別回りで事前説明を行う際に、史実に忠実の定義について、市側でヒアリングしてもらえないか。必要な書類は用意する。(JRI)
 - 承知した。
- 本日ペンディングとなった採用枠及び英訳について、及び期限を7/21としている事項については、次回定例会議で確認を行いたい。(JRI)

3. 公募枠組みの確認補足資料(公募要項の構成案について)

(公募要項の構成案について)

- 公募要項の構成案については、一旦放念してもらって構わない。

- 市側で検討している公募要項の修正案について、早々に JRI に共有する。
 - 次回定例会議で検討事項となっている認識だが、一旦は2次募集が削除されたものとなっており、最優秀者以外の補完的採用について、残っている修正案になっている。
- (契約管理課指摘事項に対するリーガルコメントについて)
- 別紙で送ったとおりの内容になる。ご確認いただきたい。(JRI)
- (竹中工務店からの要望について)
- 課題棚卸と公募枠組みの確認の竹中工務店の関与の項目等で整理した通りであり、重複のため割愛する。(JRI)

4. その他

- 次回定例は7月21日(水)09:30-11:00で開催する。
- JRI 社内体制の変更もあり、7月28日(水)午前の定例会議前にオンライン会議ではなく事務所に直接伺いたい。梅田主幹に伝えてほしい。(JRI)
 - 承知した。確認する。(市)

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/7/21 (水) 09:40～11:50
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者 [名古屋市] 梅田主幹、金子主査、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計](以下、安井)

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 12月公募開始のスケジュール変更案については、名古屋城総合事務所内で共有されたところである。7月26日週中には観光文化交流局まで共有していく。
 - 局長の意見等によって、若干早まる可能性もあるものの、12月開始の変更案は受け入れられている。
- 9月末までには、評価員、技術相談員、バリアフリー検討会議の有識者、障害者・高齢者等への丁寧な根回し・個別説明を終えておく必要があり、関係者が40を超す点に鑑み、早々に動き出しを図っていく必要がある。

2. 課題棚卸と公募枠組みの確認

① 複数採用／補完的採用の論点

- D案の場合、参加者間の技術の共有・情報を知る機会がないと連携の動きが起きないのではないか。
 - 本編資料p6のパターン①で考えている。その場合情報共有の機会は不要である。
- D案パターン①の方針でよい。
- 公募要項8-3.への追加文案については、「複数の技術の組み合わせによる提案についても、認めます。」の方が適切ではないか。

② LAコメントの公募枠組みへの反映ポイント

- 複数技術でコンソーシアムを組む場合、倒産等で抜ける場合については、損害賠償等の違約罰対応で対応するか。それとも不可抗力として仕方ないとするのか、そもそも目的を達成できないということで契約破棄となるのか。
 - 解除条件を設定すれば良いのではないか。(JRI)
 - あわせてスクリーニングや個別保証等も交えつつ、リスクヘッジの対応をしていく必要がある。(JRI)
 - 一方で、有望な技術を開発する構成員が事業継続可能な場合には、契約を存続できるようにしたいと考えている。そのどちらについても、契約条件に設定可能か確認しておきたい。
 - 双方のパターンについてリーガルに照会する。メインとサブのコンソーシアム組成の場合、資本力によって一定の安定程度のチェックはできるだろう。
- 審査基準との関係性をどうとらえるか。平均をとるのか、バラバラに採点するのか。
 - 今後詰めていく部分である。発送としては平均ではなく、足し算ではないかと思う。

- ・ 陳腐化への対応については、公募要項で頭出しをしつつ、契約条件で詰めていくこととする。(JRI)
- ・ 採用枠の件、ルート導入する場所で分ける方が分かりやすい。導入技術例はあくまで例示。2-2をメインにして、2-1の要素を組み合わせるのが良いのではないかと思う。
 - 2-1の障害の程度は補足情報とする。

③ 各会議体の整理

- ・ 意見交換会の名称について、付加設備における「協議会」の要素を「意見交換会」で読み取れるかが論点。意見を言い合える場ととらえられるかというのが論点。「意見交換会」では少し弱い可能性がある。
 - 議論踏まえ、ワークショップのまとめる。(JRI)
- ・ 評価委員会・技術相談委員会は、8~9月に実施する。WEBか対面かは未定。
 - 個別説明において、公募資料に対する要望を把握・修正反映を行う。そのうえで会議体を開催して、そこでは確認の場としたい。

④ 英語の扱い

- ・ 言葉尻をとらえられることは避けたい。他の事例踏まえ、大枠の英訳だけを示すと理解した。リスクを抱える必要はないと思う。
 - 事例がないからやめるということはない。街づくりのコンペでは英訳をしている事例がある。国際公募であることとの整合性をとる必要がある。英語だけでいいのかという指摘もある。
 - ◆ 技術事項を含む公募になるので日本語でも気を使うことになるだろう。(JRI)
 - 公募資料については、英語は概要版のみ、HPについては両訳とする。ただし、他部署から指摘が入り得ることは留意してほしい。(補記：契約書・協定書については、日本語のみとすることは7月15日定例会議で決定済。)

⑤ 建築業許可の取扱い

- ・ 導入契約を一つの流れ、木造の天守閣に設置する行為がある。建築物に設備を設置するのは建築行為。建築業法の縛り。設置するには建築業許可が必要。設置を伴わない場合は、不要。例えばパナソニックの作った電気。装備品メーカー。そういうメーカーが公募に参加するとすると、建設業許可がない問題が発生する。
- ・ 竹中は事業者に設置まで担ってほしいという意向がある。建築面でのお手伝いはできるが、設置に関する責任は負いたくないという趣旨。そのすみ分けがうまくいくかは心配。(安井)
 - 区分をはっきりする必要があるとは認識している。(安井)
 - あまりにも厳しくすると、応募が減るのも懸念している。(安井)
- ・ 責任の問題はクリアしないと、一階層ごとに昇降する技術は設置できなくなる可能性もあるように感じた。
- ・ 竹中工務店、名古屋市、安井、JRIと打ち合わせを持つ必要がある。(JRI)

⑥ ステップ名古屋

- ・ 本丸御殿にしか保険は入っていない。現在は階段体験館も入っていない。名古屋市・名古屋城としての考え方を確認している。

⑦ 実用化期間の契約

- 研究色の強い一者以外は8千万円におさまっている。予算執行上の観点で分けて記載することとした。
 - 時期がずれることも事情としてはある。2億8千万円を竣工前に執行することは困難。
 - 開発契約は、いつでも製造ができる段階。許認可も含め。導入契約は設置して、木造天守閣をいつでもオープンできるまでの契約。
 - 竣工期間が伸びることにより、開発事業者に迷惑がかからないスキームとする必要がある。(JRI)
- 分けた形で公募要項に記載する。(JRI)

⑧ 要求水準・最低要求水準チェックリスト

- 要求水準と審査基準については、それぞれ分けて記載する。

3. その他

- 次回定例は7月28日(水)09:30-11:00で開催する。なお、先週相談したとおり、JRIは一部対面で参加する。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/7/28 (水) 09:30~11:50
目的 打合せ	場所 対面・WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、石山主事、 早川技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [](記) [安井建築設計](以下、安井) []

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 12月公募開始のスケジュール修正案について、局内には広く認識されている状態であり、この方針で進めていく。

2. 公募スケジュール及び公募準備詳細スケジュールの確認

- 9月定例会、11月定例会の間は市が動けなくなる。そのため、評価員・相談員会は8月中に一度実施したい。個別回りを8月上旬から進め、8月下旬に評価員・相談員会を開催する。障がい者団体の個別説明も並行して実施する。
- 公募要項について、市とJRI間で大きな認識の齟齬があるわけではないと認識している。新しいスキーム・スケジュールに変更になった後まだ評価員・技術相談員には説明をしていないため、早めに意見を頂きたい趣旨である。
 - 2019年度に作成したA3概要資料を用い、新旧スキームを比較して説明するのがよいのではないか。(JRI)
 - 名古屋市で作業を進めている。後程共有をする。
 - 公募スキームというよりは、むしろ審査基準の認識を伺いたいと思っている。どのポイントを重視すべきか認識合わせをしたい。
- 情報審査委員会の日程は決まっているか。
 - HPを作成すると情報審査委員会を通る必要がある。情報審査委員会に諮った結果、個人情報の掲載について別の会議体に諮る可能性が生じうる。
 - 個人情報を諮る会議体は1か月程度のリードタイムを見込む必要がある。
 - 承知した。それでは、そのリードタイムを最長要するスケジュールとして盛り込む。

3. 公募資料の確認

① 公募要項の修正

- 「高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律の一部を改正する法律案に対する付帯決議」について、衆議院でも付帯決議が出されている。名古屋市にて追記をする。
- 「2-2. 想定される動線・対象とする障害の程度」における「動線のイメージ」は4階-5階間も「2-1階ごとに垂直昇降する技術」を導入できる形で図を作成する。
 - 最終的には図の挿入の必要性も含めて検討が必要であると認識している。ただ、評価員等の理解を進めるため、いったんは「動線のイメージ」を付したうえで資料を作成する。
- 概算見積もりについては、協議期間開始後すぐに提出を求めるように修正をする。

- 協議期間中に審査時の金額より高額に修正することはできない。「契約金額を上限に」という要素を加えて欲しい。
- バリアフリー協議会は昇降技術開発契約後に実施する。従って、本公募要項の記載からは削除する。
- 「3－2. 技術公募に関する説明の機会」に記載する内容は、以下の通りとする。
 - 「バリアフリー協議会」については削除（再掲）。
 - 「ワークショップ」「天守閣部会」については、「提案者に求める」内容のみに修正する。市の内部意思決定に関する箇所は記載しない。
 - 提出資料等の期日、参加者に求めるアクションを示す。
 - 提案者が提案を進めるフロー図が必要ではないか。
 - ✧ 審査基準に手順はある。そちらを修正をする予定である。（JRI）
- 「4－3. 審査手順」について、以下の通りとする。
 - 最低要求水準には定量的なものと定性的なものが含まれており、特に定性的なものについては評価員の審査が必要になる。
 - 「書類審査」「プレゼンテーション審査」はそれぞれ「一次審査」「二次審査」とする。
 - 「一次審査」では、最低要求水準をチェックするとともに、加点要求水準を含めた「仮審査」を評価員にて実施する。
 - ✧ 参加資格で応募者を絞ることも考えられるが、より多くの参加者を募る観点から、基本的には参加資格で限定はしない。
 - 「仮審査」の結果、一定の条件設定した上で、応募者数が多数の場合にはバリアフリーにおける最低要求水準をすることはある。
 - 「二次審査」では、「仮審査」で行った採点を基に、書類に加えて参考としてプレゼン等も実施した上で、必要に応じて評点の修正を行い、最優秀者を決める。
- 「最上階まで登る事」を前提としつつ、単一・複数の企業で提案を求めることがある。（JRI）
 - 求めるレベルとしては、「できる限り上層階」としている。万が一、到達できないフロアがあったとしても、公募外の手続きによって補うことになると考えている。
- 「4－3. 審査手順」の「イ 審査対象となる動作」、「ウ 安全性検証」について、公募要項上は記載不要である。別紙等で記載することとする。
- 関係資料を配布する先を把握するためにも、参加表明は必要である。参加表明後、企業とNDAを結びCADデータ等を配布することとする。参加資格要件は、参加表明時に充足をしていることを求めることとする。
 - 「8－3. 申請書類の様式」について、CADデータ等を対象とした秘密保持に関する同意書を様式に含めて提出を求める必要がある。
- コンソーシアムを組む際の条件について、リーガルチェックを実施する。（JRI）
 - 7月21日定例会議で話したとおり、コンソーシアムの構成員が契約途中で抜けてしまう事態に対して、契約中止／継続を柔軟に設定できるようにしておきたいので、その回答も待っている。
- 「5－5. 主な会議体」について、契約協議中に事業者にこの内容を依頼するのは難しい。（JRI）
 - 「協議期間」ではなく、「実用化期間に協力を依頼することがある」という趣旨の記載に修正する。会議体の表も削除する。
- 「協議期間」について、基本協定を結ぶプロセスを追記する。
- 7月21日定例会議で話に上がった、「解約」「違約罰」について追記をする。

- ・ 「6－2. 昇降技術開発契約」の「高齢者・障害者」を「利用者」に修正してほしい。

② 審査基準へのコメントバック

- ・ 最低要求水準については、以下のとおり修正する。
 - 「評価対象」列については、基本的に書類のみでの評価になるため、削除でよい。
 - 「導入後も日本国内に5年間サポートし続けられる体制に関する提案があること」については、区分「運用」を設けて移動する。
 - 「ライフサイクルコスト(10年程度)の抑制が図られていること」については、ライフサイクルコストについては加点対象の価格にて扱うべき。また、耐用年数の記載については、運用にかかる内容と思われるため、区分「運用」に移動のうえ、「耐用年数が示されていること」とする。
 - 「必要な許認可が得られる見込みがあること」については、実現性に移動。また、見込みがあることでは、ハードルが高いため、「必要な許認可を把握していること」に修正する。
 - 「1階までの昇降ができること」については、「最新の技術を用いて、大天守の1階までの昇降ができること」に修正する。
 - 「柱・梁を切り欠かないか」は最低要求水準に残し、「床・柱に使用されている木材を保護するカバー当、構造物の傷みを著しく進めない工夫があるか」は加点対象要求水準に移す。
- ・ 加点対象要求水準については、以下のとおり修正する。
 - 新技術については、30点を15点15点に分割し、後者については、「従来の昇降技術に留まらない新たな価値を提供できるか」とする。
 - 「利用時に利用者等が怪我をしないような構造になっているか」「故障などが発生した際に、利用者等が怪我をしないような構造になっているか」は当然求められるべきことであるため、最低要求水準に移動しつつ、加点対象要求水準での記載については要検討。一方で、「自動制御モードや安全運転制御等の仕組みにより、事故や怪我を未然に防いだりする工夫がなされているか」は、安全性に移動のままでよい。
 - 価格については、金額の相対評価は別項目に出すでよい。また配点は一旦、抑制50点、相対評価20点でよい。契約金額・維持管理費用ともに同様とする。
 - 史実に忠実について、「天守閣の雰囲気を損なわない意匠になっているか」は記載のとおりでよい。一方で、「利用時の稼働音等が天守閣の雰囲気を損なわないか」は定量的な評価が困難なため、一旦削除。
 - 汎用性について、「転用可能な他の文化財についての多くの提示がなされているか」は、多寡の判断が難しいため、「他の文化財への転用の見込みがあること」として、「他の文化財への具体的な提示がなされているか」「他の文化財への実現性のある提示がなされているか」とする。一般の建物の項目についても同様。
- ・ 上記修正および図表のフローチャートの修正について、次回定例会議までに提示する。
(JRI)

4. 課題棚卸

(打合せ後に双方確認とする。)

5. 竹中打合せについて

- ・ 打合せ内容は了解。打合せ資料をベースにしつつ、協議に臨む。

- 建設業許可未取得の事業者が選定された際の契約関係については、一般的には、竣工中は本体工事の元請が仕切る現場であるため、そこに契約関係がない他者を入れることを元請は嫌がるものである。そのため、元請からの再委託を受けるか、元請から昇降設備を再委託される建設業許可を有する1者を介して、そこから再々委託を受けるような、契約関係が望ましいのではないか。竹中打合せでも確認したい。(JRI)

6. その他

- 次回打合せについて、8月4日は名古屋市側全員の都合がつかないため、リスケジュールしてほしい。
➤ 承知した。(補記；8月5日(木)9時半～11時で設定済)(JRI)

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/8/5 (木) 09:30~11:50
目的 打合せ	場所 対面・WEB会議
出席者	
[名古屋市] 高橋主幹、金子主査、石山主事、早川技師、 坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計](以下、安井)

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 特になし。

2. 公募スケジュール及び公募準備詳細スケジュールの確認

- 情報審査委員会について、申請書類を提出する必要がある。先日メールで送付した3点の準備が必要となる。市としても引き続き調整を続ける。
 - 承知した。資料の準備を進める。(JRI)

3. 公募資料の確認

① 公募要項の修正

- 公募要項の変更点を以下に列挙。
 - 全体について、「天守閣」、「天守」等の表記揺れの統一をする必要がある。市で方針を検討する。
 - 日付が「〇〇」となっている部分は市で確認し、記載を行う。
 - 1-3. ※1. について、「現時点での木造天守への導入時期は」を「昇降技術の導入時期は」に修正する。
 - 2-1. について、「復元にあたっては」→「募集します」の日本語のかかり方を確認・修正する。
 - 2-3. (1) について、主語述語の関係が不明確なため、文章を修正する。
 - 2-3. (3) について、実用化期間は2023年1月以降でよい。
 - 2-5. をはじめ、「実用品開発」、「実用化」、「試作機」等の用語を整理する。他の場所も同様。
 - 2-6. 補完的な技術の採用は市の判断で復活している。
 - 2-7. ※「詳細な日程は」は削除し、「随時決定予定」の趣旨を追記する。
 - 3-1. をはじめ、「質疑応答」、「質疑回答」等の表記揺れを統一してほしい。他の場所も同様。
 - 「4. 審査」について前回議論を反映している。確認してほしい (JRI)
 - 承知した。
 - 4-3. 本文下から3行目「提案内容を評価基準に基づく」の日本語が変なので、修正する。
 - (JRI補記；「審査の手順」内部、4-3. 「6. 審査」⇒「審査」に修正。)

- 5-3. 「目指します」の語句が2つ出てきている。日本語を確認してほしい。
- 5-6. について、「以下の通りです。」を削除。「主な会議体」のタイトルを「協力を求めること」等に修正する。
- 「6. 実用化期間の会議体」については修正のとおり削除でよい。
- (JRI 補記:「6. 実用化期間」のインデント修正。)
- 7-1. の技術相談について、2パラグラフ目の文言を修正する。
- 7-2. について、「参加者」「提案者」の表記揺れはすべて「公募参加者」に、「発注者」は「事務局」に修正する。
- 7-2. について、「参加者は、技術相談員と相談のうえ」のくだりは、「技術相談員」を「事務局」に修正する。
- 8-3. 参加表明については隨時受付であること、提出の期限は審査申請書類提出期限までとすること、審査申請書類提出後の提出は認めないことを追記する。
- 8-3. 「審査参加申請書類」は「審査申請書類」に修正統一する (JRI)。
- 8-3. 「様式一覧」について、参加表明時に必要なのか、審査申請書類に必要なのか分かるような記載に修正する。
 - ◆ 一覧表に、これまで記載していたタイミングごとの提出書類が分かるような列を追加する。
- 11-7. ⑥について、「7-2.」を「8-1.」に修正してほしい。
- 11-9. 公募要項等の日本語優先の項目はリスクヘッジのため削除しないこととする。
- ・ 使用言語について、参加表明書類、審査申請書類を作成する際の言語は日本語のみとする。
 - 技術対話やプレゼンテーション審査における使用言語は日本語のみとする。公募参加者は、必要に応じて、通訳を準備することを求める。
 - ◆ この点も公募要項に反映させる。 (JRI)
- ・ 修正点をあわせて、来週には局内で議論したいので8月10日(火)午前中いっぱいまでに公募要項の修正版を提示してほしい。同日午後の早い時間に庁内で確認する。
 - 公募要項等を送付する際には、コメント・修正履歴反映版も併せて送付する。(JRI)

② 審査基準の修正

- ・ 加点要素要求水準29に「介助者がすぐ傍らにいる状態であっても」を追記した趣旨を説明してほしい。
 - エレベータ系の技術をイメージし、利用者と介助者が同乗するイメージを伝える意図だった。審査基準no.23「誰もが簡単に使えること」の観点のうち、「独りで簡単に使えることができるか」とできる限り矛盾しない説明をする趣旨でもある。
 - 「介助者」は、障害者の付添人を意図しているか、それとも市として介助者を設置する可能性も含めて「介助者」としているのか。(安井)
 - ◆ 免許が必要になることも想定されるので、敢えて厳密な「介助者」の定義はしなかった。 (JRI)
 - この部分の書きぶりについては、市内部でも検討をする。
- ・ 配点修正を検討してほしい。「安全性」、「価格」、「実現性」がすべて110点になるように修正したかったという意図と考えている。
 - #14:40⇒50、#16:20⇒15、#17:50⇒40、#18:20⇒15、#19:50⇒40、#20:40⇒60

- #31 で木材の保護を求めていることに対応して、#30 について木材の切り欠きを行わないことを求めていることが分かるように追記をする。
- 修正案を今週中に送付する。(JRI)

③ 要求水準案の修正方針

- 要求水準の各項目について、番号を振り、その中で補足説明をする必要がある場合に「・」を追記している。「1 要求水準」の部分に、その主旨の説明書きを追記する。(JRI)

4. 課題棚卸

(得点シミュレーションについて)

- 本編資料の「得点シミュレーション」について説明。(JRI)
 - 「史実に忠実の観点」が点数に大きく影響を与える印象である。
 - 「安全性」以外に、「利用者の信頼感・安心感」を評価できる項目はあるか。
 - ❖ 28 「怖い思いをしないで乗れること」、36 「各評価項目を総合的に勘案して、特に評価すべき項目があること」になる。(JRI)
 - ❖ あくまで 14 「利用時の安全性確保」は設備に関する安全性の工夫を評価するものと理解した。
- 「災害発生時に観覧客の避難を妨げない工夫が提案されているか」は、階段を利用する機器は点数が低く出るなる可能性がある。一方、アシストスツールが高評価になる可能性がある。
- 31 「天守閣の床・柱に使用されている木材を保護すること」は天守閣を傷つけない趣旨の項目と思う。その意味では、スーパー・デッキのような技術が高評価になるということか。
 - 壁に穴を開けること、天守閣側で受ける部分の耐荷重を考慮する必要があるため、評価は高くならないと想定される。その意味では、開口部を用意し、耐荷重を考慮する必要がある昇降機も同様に本項目は低評価になる可能性がある。(JRI)
 - #31 で木材の保護を求めていることに対応して、#30 について木材の切り欠きを行わないことを追記する。

(ステップ名古屋の保険の付保について)

- 現時点では、ステップ名古屋は保険に入っていない。ステップ名古屋は実証用の施設であり、破損されるのは致し方ない。
- 公募期間中に破損した場合も考慮すべき。(JRI)
- 保険に入ることを事業者に義務付ける方向で検討すべき。(JRI)
 - ❖ 損害をスムーズに取り戻すことができるのが保険の良さである。(JRI)

(公募参加者) の NDA の締結

- 公募参加者の NDA の締結は済。課題リストから削除する。

5. その他

- 次回打合せについて、8月11日(木)9時半からとする。(JRI)

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/8/11 (水) 09:30~11:35
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、石山主事、早川技師、 坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計](以下、安井) —

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 特になし。

2. 公募資料の確認

① 公募要項の修正

- 以下について、市で修正を行った。
 - 2-3. (3) の図表を修正した。素材も共有したとおり。
 - 2-7. スケジュール概要の図表についても修正した。再提出を受けてからも評価員・技術相談員会を審査直前に開催した方がよいかと思い、加筆した。
 - 3-1. 公募説明会だが、オンデマンド配信形式に書き換えた。
 - 8-3. 審査申請書類の様式一覧だが、参加申請書類で提出するものについて、審査申請書類列に「- (ハイフン)」がついていたが、分かりやすく鑑み、該当箇所のみ列を統合し、「○」のみにした。
- 4-3. 審査の手順についても、フローチャートの最初に審査申請書類提出を加えた。審査基準の資料は修正していないため、JRIで素材を修正して、審査基準に追加してほしい。
(補記：菱形のフローは条件分岐のため、形状を修正する。)
- 4-7. 「一定の基準」については、基準の内容を記載すべき。検討してほしい。
 - 「仮採点結果で上位から順に」の表記で修正する。(JRI)
- 昇降技術開発契約や導入契約について、図の方で追記してほしい。
- 質疑回答を2回に分けているのはなぜか。
 - 技術相談の前後でタイミングを設けている。(JRI)
- 2-5. 契約の中止・取り消しについて、公募参加者の瑕疵によって契約が締結できない場合は記載のとおりだが、議会議決がならなかつた際の対応についてはどうか。
 - 6-5. で文言を記載している。様式集の「公募要項に対する同意書」を提出させることで、公募参加者からのクレームに対応することになる。一方で、訴訟リスクを回避しきることは難しいが、それを極力軽減するということについて、リーガルコメントとともに、上記同意書を準備している点を認識置きいただきたい。(JRI)
 - 6-5の記載内容に基づき、2-5. とも整合をとる。(JRI)
- 指摘事項を修正し、早々に送付する。(JRI)

② 審査基準の修正

- 文言修正の3ヶ所（#5の3ポツ目、#17の1ポツ目、#29の3ポツ目）を名古屋市にて確認してほしい。（JRI）
 - 公募要項を確認することに集中しており、審査基準はまだ確認できていない。
 - 手を加える部分は少なくなってきた印象である。引き続き確認をお願いしたい。（JRI）
- 冒頭のフローチャートについては、公募要項同様に修正し、早々に送付する。（JRI）

③ 要求水準案の修正方針

- P1 下から二つ目の段落のコメントについて、「補足的な要求事項については、「・」を付けて記載している」と修正する。
- #31 はエレベーターのような技術とはどのような関係性になるか。
 - 補強材を入れるといった対応はエレベーターでも必要。そのような処置がしていれば加点されるものと考えている。（JRI）
 - #31 の項目でエレベーターのような技術において減点幅が多いことが気になった。
 - 「史実に忠実」を重視する以上、仕方ない部分があると考えている。
 - ただし、有識者の判断を踏まえて、「史実に忠実」の箇所の要求水準の記載は変わることもある。その点は留意いただきたい。（JRI）
 - 「史実に忠実」については、減点方式も含めて検討をする必要がある。委員からも意見が出得る可能性がある。個別回りを通じて文言修正が入る可能性がある。
- #8 について、「変更は原則行わないこと」ではなく、「変更は行わないこと」に修正してほしい。
- 指摘事項を修正し、早々に送付する。（JRI）

④ 様式集の修正方針

- 様式3-1. について「(1)」の語句は(2)以降がないため、番号付けをやめる。
- 様式1-1. 代表事業者名で「※JVの場合のみ」となっているが、「コンソーシアム等」というようにJVに限定されないように記載修正してほしい。
- 様式2-2. 「基本的には」の語句については、意味が不明瞭なので不要ではないか。
 - 「基本的には」の語句は削除する。
- 申込時点で技術概要について全て公表対象とすることについては、公表を嫌がる事業者がいる可能性があるため、難しいのではないか。最優秀者=契約候補者は公表対象とは思うが、それ以外の公募参加者についてどう扱うのか。少なくともワークショップなどにおいて、情報が開示されることを公募参加者が認識しておく必要がある。
 - 公表に対する同意書については、何をどのタイミングで誰に公表するのかということを整理したうえで、どうするか検討する。（JRI）

⑤ 別紙の修正方針

(別紙2について)

- 階段体験館の利用者が入る保険について、「壊したら直す責任が伴う」ということを求めればよいのではないか。法的に求められている保険ではなく、任意のものになるので。

- 別紙2からは保険に係る記載を削除する。（JRI）

(別紙3について)

- P1 「基本的な考え方等は、新規にバリアフリー技術を導入しないという前提にたった施設計画に基づく内容です。」という表現は誤解を招くため、「バリアフリー計画導入前の内容に基づく」という趣旨に修正してほしい。
- P2 「協議期間を通じて本市及び～」以降の実用化期間の時点でも木造天守復元の設計・施工者（＝竹中工務店）との協議を行う趣旨は追加する。（JRI）

(別紙4について)

- 事務局にて判断を行うことは避けたく修正したい。（JRI）
- P1 「採用枠」の表記が残っているので修正してほしい。

3. **課題棚卸**

- 課題積み残し事項について更新事項があれば市側でも確認・更新してほしい。（JRI）
- ファイル共有サービス「ボックス」の扱いについては別途手続き等について確認でき次第連絡する。（JRI）

① 映像関連の検討

- 映像のやり取りについて、庁内の各種審査会を通す必要があり、市内部の手続で2ヶ月かかる。
- そのため逆算すると、12月公募に向けて、庁内審査会に通すには10月頭に映像コンテンツができている必要がある。そのため、9月の上・中旬に案ができていなければ間に合わない可能性がある。
 - すべて決める必要はないが、残り1か月で内容を詰める必要がある。
 - 技術公募ホームページができるまで公募できないという事態は避けたい。
- 昨年度の映像内容でほぼ決まりとは認識しておらず、しっかりと詰めたい。
- そのため、8/18の事務局会議はスキップせず開催したい。
- 映像制作事業者との調整を踏まえ昨年度のものをベースとして議論を進める前提でよい。
 - 承知した。（JRI）

② 様式集・別紙の検討（8/18）

- 担当者の夏季休暇の都合もあり、様式集の大幅修正は難しいかもしれないが、別紙はメールベースでやりとり、映像関連のコメントバックする場として8/18に会合（1.5時間程度）をセットする。

4. **その他**

- 次週打合せは8月18日（水）9:30～11:00で実施する。
 - 主な議題は以下とする。
 - ◆ スケジュール
 - ◆ 映像や技術公募ホームページについての、要望事項の協議（19年度業務をもとにフィードバック）
 - ◆ 課題一覧
 - ◆ （可能なら）様式集・別紙の確認

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/8/18 (水) 09:30~11:50
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、早川技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計](以下、安井)
[REDACTED]	[REDACTED]

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市からの情報共有

- 9月市会の対応等で繁忙期に入るため、評価員・技術相談員会については、10月初旬にずれ込む見込みである。
- 障害者団体については、障害者団体連絡会の橋井会長往訪から12団体を回っていく。
- 高齢者については、公益社団法人名古屋市老人クラブ連合会に対して、同会の9月の定例会合にあわせて、金子主査が往訪調整を行っており、その場で技術公募の説明とワークショップへの参加をお願いする予定である。

2. スケジュールについての確認

① ホームページ立ち上げに関して

(スケジュール)

- ホームページの立ち上げにあたっては、いくつかの府内審議プロセスを経る必要がある。
- ヒアリング（係長級）→ワーキング（課長級）→情報審査委員会（情報公開関係部署）→個人情報保護審議会→HP公表という流れになる。
- この期間で概ね2ヶ月必要となる。
 - 個人情報がある場合は、個人情報保護審議会に諮る必要がある。個人情報の不正利用ができる形になつてないか審議してもらう。
 - 個人情報保護審議会に諮る場合、そのあたりで1ヶ月程度かかることになる。

(申請書類)

- 1) システム概要図、2) 審査資料様式、3) 電子情報保護対策 が府内審議に必要となる。

1) システム概要図

- 「名前解決」とは何か教えてほしい。
 - ドメインとの紐付けと考えられるが再委託事業者((株)ハイズ)に確認する。(JRI)
- 地球儀の横「一派ユーザー」→「一般ユーザー」に修正してほしい。
- 鍵付きの位置について場所があつてあるか。思想について確認してほしい。
 - 承知した。(JRI)

2) 審査資料様式

- 誤字があつたので修正した。
- ※マークを追加した。

- (8) 個人情報取扱事務の再委託の内容について評価員等の氏名等をHPに載せるが該当しないか？要確認

3) 電子情報保護対策

- コメントに関してマーカー着色箇所の分類は以下のとおり。
 - ✧ 黄色：確定修正内容
 - ✧ 水色：今後要検討内容
 - ✧ 緑色：修正は不要だが留意事項
- 詳細については再委託事業者 ((株) ハイズ) に確認する。(JRI)
 - ✧ なお、今後WEBに関する会合にハイズを出席させて議論したほうがよいのではないか。(JRI)
 - ✧ 問題ない。

(その他確認事項)

- 公募説明会のページを作る必要があると認識している。
- 公募参加者については、公募期間中は技術公募ホームページに掲載しない想定である。事業者への問い合わせ等のトラブル回避のため。(JRI)
- 福田先生にはお願いしたい。挨拶文は JRI が原案を作成しており、改めて確認し修正する。(JRI)
- アクセシビリティレポートについては、承知した。(JRI)
 - 再委託事業者 ((株) ハイズ) が気になっていた点である。今回バリアフリーをテーマとした公募であり、開示したほうがよいと考える。ハイズと会話しておく。(JRI)
 - 国もアクセシビリティガイドラインを出していてどこまで寄せられるか。協議してほしい。

② 個人情報について

- 個人情報の扱いについて市に確認したい。名古屋市宛に来る参加表明書の個人情報を JRI に共有することになると想定している。JRI の社内規定上、以下の 2 点示してほしい。(JRI)
 - 個人利用目的が明記してある旨
 - 個人情報を委託している旨
- 様式については JRI にて用意する。(JRI)

3. 映像関連の貴市からのコメントバック (JRI 資料なし)

- (特になし)

4. 課題棚卸

① 情報共有について

- BOX にアップするデータは CD でほしい。
 - 承知した。(JRI)

② 公募要項：情報公開について確認

- 公募要項について確認したい。公募参加者からの技術概要が様式 3-2 にあるが、技術概要

- は、審査が終わってから公表する方向で議論していたが、公募期間中に技術概要は外に出さない、という考えである。

➤ 後続の公募参加者からの情報の取り扱いの項目で議論させてほしい。(JRI)

③ 基本協定と見積もりの流れについて確認

- 公募要項 P15において、5-2で基本協定について「本市と契約候補者は、～基本協定を協議期間開始後すみやかに締結します。」、5-4で概算見積書について「協議期間中の契約条件の協議を経て、～概算見積書の提出を求めます」とある。
- 一方で、P9において、2-7で「※最優秀者選定後、契約候補者に2022年の9月を目途に速やかに概算見積書の提出を改めて求めます。」とある。
- 契約候補者が概算見積書を提出するのは、基本協定を結んだあとに契約協議の後か、最優秀者が決まつたらすぐなのか。
 - 5-1以降の記載が正しい。逃げられないように基本協定を締結し、契約協議をして、見積もりを行い、合意したら契約締結という流れである。(JRI)
- 基本協定を締結し、昇降技術開発契約を詰めて、昇降技術導入契約を結ぶということと理解している。基本協定には、将来の昇降技術導入契約も入るのか。
 - 昇降技術開発契約と昇降技術導入契約の二段階になる。(JRI)
 - 何年か後の導入契約の見通しも見越して基本協定を結ぶ、ということか。その場合、中身があまり詰まっていない状況で、導入契約までやるような協定の中身になる、というものと理解した。
 - 基本協定についての目的は、優先交渉権者に逃げられないようにするためである。今回は予算がすぐ取れないので4か月という期間があると理解。すぐ締結できるならしたほうがよいが。(JRI)
 - ◆ 9月に最優秀者を決め11月議会で予算を決めてもらう。
 - ◆ 予算が取れていない中で選ぶのは例外である。なので名古屋市として立ち場が弱い中で、逃げられないようにするための措置である。締結の目的を設定した上で、条項を弁護士と詰めていく。導入契約も含めるのはやや性急ではないか。(JRI)
 - ◆ 導入契約の予算もいつ取れるか不明。基本協定締結時で予算が確保されていない可能性は高い。PPP/PFIでは協議を終わった3、4ヶ月に締結するのか。
 - ◆ PPP/PFIでは、基本協定はもう少し内容を詰める。質疑での内容等含めて官民ともに確認したい事項を整理の上、1か月で2、3往復して、仮契約を締結する。庁内で上程し議決を経て、結果3、4ヶ月かかるのが契約の実態である。(JRI)
 - ◆ 名古屋市では予算が取れていない中で、まずは基本協定で逃げられないようにし、予算が決まれば、開発契約を結び、並行して、細かな手続きをする。その中に見積もりを行う。であれば、「速やかに見積もり」ではなく、協議後に見積もりを提出、とするものと理解した。
 - 公募要項2-7の表現が誤りであり、削除を市側で対応してほしい。(JRI)

④ 公募参加者からの情報の取扱い

- 基本的に提案どおりでよい。
- 様式4-1及び4-2の費用については、竹中工務店に諮る場合は調整が必要。(安井)
 - 技術的知見については竹中工務店の協力は取り付けてあるが、費用については、安井自身で確認できないのか。(JRI)

- 原則安井に見てもらって、仮に不明な点があるならば抽出して QA 形式で竹中に照会する形でよい。(JRI)
- 本公司における竹中工務店と B C J の位置付けはオフィシャルに整理できているのか。(JRI)
 - 現時点では、オフィシャルになっていないと認識している。そのため、公募要項に課題点で記載した内容を追記する。(JRI)
 - 今の時点の公募要項のバージョンでよいので、それらの内容を公募要項に追記してほしい。
 - 承知した。(JRI)
- 今回の情報取扱いの表を清書して、公募参加者の情報を提供する対象・範囲・時期を様式集に追記する。公募要項にも、情報公開については、様式集の同表を参照する旨を追記しておく。(JRI)

5. その他

① 次回の定例会議について

- 次週打合せは 8 月 25 日 (水) 9:30~11:00 で実施する。
 - 主な議題は以下とする。
 - ◆ 名古屋市からの情報共有など
 - 個別回りの状況 共有
 - 今後のスケジュールの確認
 - 個別回りを受けた公募枠組みへの影響確認
 - ◆ 公募資料の確認
 - 様式集の修正案確認
 - 別紙の修正案確認
 - ◆ 課題棚卸
 - ◆ その他
 - 次回打ち合わせの議題について

② 公募資料の詳細確認について

- 様式集の審査申請書類について、参加表明書類において同意書を取るが、様式 2-1 の公募要項に対する同意書を出して、書面提出となっているが、公表に対する同意書、様式 2-2、2-3、2-4 には押印は必要ないのか。
 - 修正漏れと思われる。ただし、海外事業者はハンコがなくサインとなる。(JRI)
- 様式 4-2 設置後 10 年間の費用について。10 年というのが審査基準等から落ちているはずだが、残っているのではないか。
 - ご認識のとおり。まとめて修正予定だった。(JRI)
- 要求水準書で 5 年間サポートについて、なぜ 5 年としたのか。なぜ 5 年とした根拠が説明しづらい。
 - ヒアリングを通じて製品の対応期間として 5 年くらいの製品保証をしているのが多かったことによる。ただし、耐用年数に合わせる必要がある認識である。(JRI)
 - 事例調査をした経緯があるので参考資料を送る。(JRI)
- サポートとはどういう意味か。瑕疵担保か、どこまで面倒を見る必要があるか。維持管理を含むのか。

➤ 維持管理を指している。(JRI)

6. 次年度業務について

- 弊社の認識としては別紙のとおり。業務範囲から漏れている業務項目があれば、ご指摘いただきたい。(JRI)
 - ないものと思われるが、持ち帰って詳細確認する。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/8/25 (水) 09:30~11:30
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 高橋主幹、金子主査、早川技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計](以下、安井)

特段断りがない限り、名古屋市の発言

1. 名古屋市から情報共有

- 有識者に対する個別説明を実施している。現時点では、バリアフリー検討会議座長・堀越先生、評価員・阿部氏、塙田先生、技術相談員・麓先生、鈴木氏に説明を実施している。
 - 9月の1週には個別回りが終わるものと認識している。(JRI)
 - 既に回っている有識者の議事録は後程送付する。
- バリアフリー検討会議の座長である堀越先生を往訪した。公募全体について大きな影響を及ぼすような意見はなかった。現状「バリアフリー検討会議」を公募開始直前に公開で実施する予定だが、「非公開で公募に関して議論をする機会を設けるべき」という意見が出た。その方向で調整する。
 - 非公開のバリアフリー会議の開催時期はいつを想定しているか。(JRI)
 - 公開は12月の頭。非公開は10月後半で実施する想定でいる。緊急事態宣言の状況も踏まえつつ、オンライン開催も含めて検討したい。
 - アジェンダの設定はどのように想定しているか。(JRI)
 - 座長の意向も踏まえながら内容を調整したい。12月の予算折衝の際にも、「有識者の意見は踏まえているのか」という指摘が出る。その対応としても開催をしておきたい。
- 評価員・技術相談員については、先週は技術相談員・麓先生、今週は評価員・阿部氏、塙田先生、技術相談員・鈴木氏で説明回りを行い、協力的な反応であった。
 - 評価員・技術相談員会の開催については、説明先に対して時期とともに伝達済。
- 評価員・阿部氏は建築事務所社長でもあり、かつ、自身も障害者であることから以前のワークショップにおいて障害者団体参加者との橋渡し等を担うなど、大きな役割を果たしていただいているキーパーソンでもあるため、阿部氏のコメントについて詳細を伺いたい。(JRI)
 - 公募要項の分かりにくさに対する細かい指摘はあった。個別説明終了後に、整理して反映方針を検討していきたい。
- また、個別説明に際して、実用化期間中の技術開発は利用者等の意見を受けつつ推進していくことになるが、その際の謝礼金が必要ではないか指摘も頂いた。昇降技術開発契約の契約金から拠出するのか、あるいは、市が謝礼金を別途の予算枠から支払うのかは、今後の検討事項の認識である。
 - 公募参加者に対応を求めるならば、予め公募要項に入れておく必要があるのではないか。(JRI)
 - 公募要項に反映する際に留意しなければならないのは、1) 有識者の方々が拘っているポイントについては尊重して反映する、2) 公募参加者の競争環境に係るポイントについては加筆修正を検討のうえで判断する、そういう対応が求められるのではないか。(JRI)

- 認識の通り、それぞれの個別説明結果を整理したうえで、反映方針を検討したい。

2. スケジュールについての確認

① 映像事業者について

(PR 映像について)

- 評価員の阿部先生より、映像について好意的なコメントがあった。特に、木造天守閣が揺れることを伝えることを載せるべし。という意見だった。映像は気に入っている様子。
 - 市としても、どのようなものか確認したい。
 - 絵コンテや動画については、2019年の納品に入っているので確認する。

(説明会について)

- 説明会映像については、市の日本語原稿の英語化を想定すると、11月19日（金）までには原稿作成を終えておく必要がある。（JRI）
- 市長あいさつについては、諸般の事情に鑑み、是非を検討したい。
- 担当者説明については、担当者を投影するのではなく、資料を映像上めくっていくようにしたい。
- できれば、説明会映像も12月22日の公募開始に間に合わせたい。
 - そのため、説明会映像の検討については、PR 映像とパラレル化の対応が可能か確認してほしい。
- PR 映像についても、単独に加えて、説明会のオープニングに使えるような構成にできるか。
 - 映像事業者に確認したい。（JRI）
- 2019年度業務での映像資料については、あらためて BOX に掲載しておく。

② WEB 事業者について

- 23日に再委託契約を結んだ。26日にさっそく打合せを持ち、今後のスケジュールの確認及び情報審査委員会向けの申請資料修正について検討する予定である。

3. 公募資料修正

① 公募要項について

- 公募要項8-3. の公表対象で竹中工務店やBCJの明示を行うことは必要か。
 - 公募参加者から提出があった資料の著作権について、損害賠償の訴訟リスクを回避する必要がある認識をしているため、公募参加者に対して予め許可を取っておかないといけない。（JRI）
 - BCJとしては、表立ってのコンサル業務を行うことを忌避したい筈である。
 - それならば、名古屋城天守閣整備事業の基本協定締結先、名古屋城天守閣整備事業の建築に係る評定機関という書き方で加えてはどうか。ただし、質疑回答の際に組織名を明らかにすることを求められる可能性はある点には留意しておきたい。（JRI）
 - 公募参加者としては、BCJが入ることでむしろ、きちんと実現可能性を担保できるという意味で歓迎されるのではないか。（安井）
 - 本来ならば、BCJへの照会・参考コメントの期待事項については、本業務のTAである安井が担うのが最も望ましい。したがって、BCJの名称をぼかして表中に記載する場合にしても、逸脱しているのではないか。（JRI）

- それでは、表外の注記で、「外部機関に対して、出すことがある。その場合は事前に確認を取りる」として、公募参加者がその共有を拒絶する場合は、評価することを市としては諦める必要がある。竹中については、外出ししなくても良い認識をしている。
 - 仮に公募参加者が外部機関への共有を拒否する場合、その公募参加者の扱いはどうなるのか。(JRI)
 - 参加資格要件や審査基準に上記条件はないため、失格や評価を低くすることはできない。ただし、評価困難な事態になった場合、結果として評点が下がることはありうる。
 - 評価困難ではなく、あくまで照会先は参考意見ではないか。(JRI・安井)
 - その認識で了解した。
 - 他の修正箇所の検討を市で進めているため、本修正については、市で引き取る。
- 公募要項 10-2. 公募参加者との接触については、BCJ は公的な性格を帶びている点もあり、特段禁止しなくてよい。一方で竹中は民間事業者のため、現状の記載のとおり、禁止でよい。
 - 公募要項 8-1. の参加資格要件として、名古屋城天守閣整備事業の基本協定締結先である株式会社竹中工務店、及び名古屋城天守閣整備事業の建築に係る評定機関である一般財団法人日本建築センターとの資本・人事等において関連がないことは必要な条件のため、加筆している。(JRI)
- 了解。

② 様式集について

- 修正箇所を確認して、フィードバックする。

③ 公募要項別紙 2、3、4について

- 修正箇所を確認して、フィードバックする。
- 公募要項別紙 3 については、竹中工務店が加筆修正の太宗を担っていると認識しているが、公募参加者への依頼・指示調の文体が多く、参考情報の位置付けにそぐわないため、その点についても大きく手を入れたい。
 - 上記点について、対応したものが今回資料になるため、今回資料ベースに確認・加除修正してほしい。(JRI)
 - 了解。

4. 課題棚卸

① 公募参加者からの書類のうち個人情報の取扱いについて

- 公募参加者氏名、住所、連絡先等は個人情報に該当するため、公募参加者に対して、JRI 等がその情報を受領する旨を何らかの形で明示、管理体制を構築する必要性について、JRI 社内から指摘を受けている。したがって、個人情報を墨塗りで市から受け取るなどの対応が必要である。(JRI)
 - 墨塗りの場合は、対応に市の手間を要するため、様式集上での副本等の仕組みを設けることで対応できないか引き続き検討したい。(JRI)

② 令和 3 年度業務について

- 令和 3 年度業務の契約的決時に提出する業務日程表について提出してほしい。また、現状再委託を行っているが、再委託申請についても提出してほしい。

5. その他

① 次回の定例会議について

- ・ 次週打合せは9月1日（水）9:30～11:00で実施する。次回からはJRI [REDACTED]に替わりJRI [REDACTED]が会議をファシリテートする。

② 公募資料の市からのコメントバックのスケジュール

- ・ 公募要項については、本日・明日を目途にコメントバックしたい。様式集や、要求水準・審査基準についても同様。
- ・ 公募要項別紙3については、修正点が多くあるため、遅くなる見込みである。
➤ 早めにコメントバックされた公募資料について、次回打合せに向けて対応を検討したい。（JRI）

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/9/1 (水) 09:30~11:00
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 高橋主幹、金子主査、早川技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記] [安井建築設計](以下、安井)

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字：名古屋市のアクション（宿題）

青字：JRIのアクション（宿題）

1. 名古屋市からの情報共有

- 評価員・技術相談員は残り二人。明日ジョシュア氏を往訪する予定である。山田先生は直接往訪からWEB面談に変更となり、日程も来週で調整となっている。
- 主な指摘としては、
 - 麓先生より、加点要求水準において、「より上層階に登れることを評価すべし」という指摘があった。
 - 塙田先生より、「安全性の部分で自動制御等も必要ではあるが、手動で止められることを評価するべし」という指摘があった。
- 個別回りは概ね予定通り進んでいる。

2. 情報発信の進め方

① 映像

- 市長のプレゼンは見送り、収録しない方向で調整する想定。これから庁内を調整する。
- 室の中で、誰がプレゼン（ナレーション）をするのか、これから調整する。
- 9月13日打合せへの参加はかなわないが、10月前、絵コンテが上がってきたあたりに、もじやと、すり合わせMTGする。
- ナレーションの英訳をどのように進めるか整理する必要がある。職員が英語でプレゼンする想定はないため、英語字幕を付けることとしたい。
 - 承知した。英訳については弊社が実施するべきか。（JRI）
 - お願いしたい。
 - 承知した。外注するため、時期については詳細調整させていただきたい。字幕でよいならばナレーション収録が予定されてる11月初の後での対応が可能と理解しているため、スケジュール上の問題は発生しないと理解している。（JRI）

3. 公募資料の確認（以下頁番号はWord履歴版のページ）

① 技術公募のパターン

- P6 2-2 「大天守地上階又は地階から可能な限り上層階まで昇降できる技術」と表現する修正方針でよいか。2パターンの技術募集は避けたい。（JRI）
 - 修正方針で了承した。

② 契約金額の記載の可否

- P11 2-4、2-5：契約金額が削除された理由について。契約金額は記載すべきではな

いか。(JRI)

- 序内で確認する。最終決定は決まっていない。予算がない状況で記載すべきではない、と財政部局から指摘が入る懸念がある。

③ 契約名

- P11 2-4、2-5：昇降技術「契約」の「契約」が削除された理由についてうかがいたい。(JRI)
 - 不明である。市内部で確認する。

④ 契約金額の対象範囲

- P23 8：契約金額の対象範囲が削除されている。ヒアリングでよく聞かれる事項であり掲載すべきではないか。(JRI)
 - 6章の契約範囲の内容が異なっていたので、昇降技術開発契約と昇降技術導入契約で分けていた。記載したもの用意していた。昇降技術開発契約と昇降技術導入契約で試作機の扱いを修正した。改めて確認する。

⑤ 技術対話過程の記載の可否

- P27 技術対話過程を公表する旨は追記すべきではないか。削除した理由を教えて欲しい。(JRI)
 - 不明である。確認する。

⑥ 提出書類一覧表

- P32 ※1として「木造天守復元設計・施工者」を示すのであれば、表中に書き込んで構わないのではないか。意図をお聞きしたい。(JRI)
 - 最新版では表中に入れた。1ページに収めるため修正した。最新版を共有する。

⑦ 技術概要の記載とコンソーシアム

- P32 500字程度の技術概要を作成頂く予定である。水色コメントの趣旨を伺いたい。(→水色コメント】参加表明書（様式1-1）のレイアウトを調整して初めから書いてもらった方が簡単かもしれない。コンソーシアムの場合は一般的にはどうしてるか。
 - 情報公開の説明の中に簡易説明があり、コンソーシアムのときどのようにしているか把握したい趣旨だった。
 - コンソーシアムとしての技術概要を書いてもらう。コンソーシアムを構成する企業を複数記載してかまわない形である。(JRI)

⑧ 見出しと本文の整合

- P38 10-1 審査申請書類の虚偽記載の禁止の見出しと、赤字の追記内容（接触の禁止等）があつてないため、見出しの修正、もしくは文章を分割する必要がある。10-2.と合わせて、評価員の接触禁止等新しい項目立てを追加する方向で調整すべきと考える。(JRI)
 - 編集の途中で整合できていない。市側で再度確認・修正する。
 - まとめると、2章に契約金額と対象範囲を記載するか？昇降技術開発契約、昇降技術導入契約の「契約」を削除した意図、改めて市側で確認する。
 - 承知した。よろしくお願いしたい。(JRI)

⑨ 参加要件

- 8-1 JRI関係者は参加できない旨。追記されている。JRI及び再委託先名があるがJRIのみにとどめたほうがよいのではないか。
 - 再委託先まで含めことが多い。再委託先からの情報漏洩を懸念しているのか。(JRI)
 - そのとおり。

- ただし、業務の再委託先とは業務の一部であり、業務の骨格にはかかわらないので削除してもよいかもしだいが、安井建築設計（TA）、その他LAは掲載したほうがよい。（JRI）
- 所内で話をする。
- 当社としては削除されて問題ない。指示にしたがう。一般的な考えに基づき記載している。（JRI）

⑩ 審査基準について

- 加点要求水準という名称が妥当なのか。
 - 大きなこだわりはない。基本的に要求水準を超えたものしか審査しない、という趣旨である。（JRI）
 - 例えば「加点基準」などではないか。（JRI）
 - 検討する。

⑪ 審査方法について

- 公募をやらないとわからないが、参加者数多いと評価員の負担が大きい。内部の議論によれば、バリアフリーにおける最低要求水準要件を設けたほうがよいのではないか。
 - 例えば、総合点が6割に満たない。バリアフリーの項目でC項目を下回る、等。
 - その点は決めの問題である。ただし、6割などは控えたほうがよい。その評価が必要となるので。項目を絞った内容での審査を多段階審査としてはある。国土交通省の指針でもそうした方針があり依拠されるものはある。（JRI）
 - 現状は、バリアフリーにおける最低要求水準については、勾わせ程度の表記になっている。
 - 第一次審査をするのであれば簡易なものにすることが望ましい。（JRI）
 - 市内部で表現を修正する。簡易採点は評価員含めて簡易評価をする想定である。
 - 承知した。改めて確認し、懸念があれば別途相談する。（JRI）
- 最低要求水準、加点要求水準について、山本評価員から、担当分野がわかれれば教えてほしい、との意見があった。
 - 審査分野の役割を切るというよりは、全体的に評価してもらい、自信のないところは、議論をして、専門家の意見を聞いて適宜修正すれば負担は軽減される。（JRI）

4. 今後について

① 業務スケジュール確認

- 公募資料作成の進め方は提案のとおりでよい。毎週定例だと、作業が間に合っていないので、隔週がよいと思う。
 - それでは次回は9月15日とさせていただく。
- 評価員会・技術相談委員会は、本会議が終わる10月12日以降で調整する。
 - 所長の挨拶文をお願いしたい。
 - 承知した。（JRI）
- 評価員と技術相談員の役割、出番については明確に分けた方がよいと思われる。技術相談員は、技術対話まで、参加者をサポートする役割とし、提案書提出直後から提案書を読み込む。評価員は、技術対話を踏まえた改善提案受取後、から提案書を読み込み、改善提案を評価する。（JRI）

➤ その切り分けでよいと思う。他方、提案書提出直後において、評価員に何らかのインプットは必要である。

➤ 概要版を提示するにとどめることでいかがか。(JRI)

➤ それでよい。

・ 竹中工務店と打ち合わせは、必要だと認識している。7月の打合せ時に、施工体制の検討を依頼しているので、検討結果を議論したい。また、公募要項別紙3について、竹中が神経質となっているので、内容面の調整が必要。

➤ 承知した。別紙3については、スケジュール踏まえるとこれで「公募するからご承知のこと」とのスタンスで、貴市から説明する場とした方がよい。(JRI)

➤ 了解した。打ち合わせ時期については、市にて判断する。

・ 天守閣部会WGは実施するのか。

➤ 確認する。

② 課題の確認

・ 必要な確認については、議論済みである。従い、確認が必要な事項があれば、メール、電話等で、適宜ご連絡いただきたい。(JRI)

③ 次回打ち合わせの議題について

・ 公募までのスケジュールについては、整理されつつあるので、公募後の進め方、論点整理をお願いしたい。

➤ 特にWSの開催方法について整理してほしい。コロナを踏まえ、WEB活用が進んでいるとの理解だが、どういった進め方をしているのかを把握したい。

➤ 別案件でWSを実施しているため、情報収集は可能と思う。承知した。

・ 議会の委員会の日程が決まったら連絡する。市のHPから議論を聞くことが可能である。

➤ 承知した。先約がなければ、参加させていただく。

5. WEB製作企業との打ち合わせ

・ 名古屋市でHPを立ち上げると、以下の調整が必要となる

➤ 担当者のヒアリング

➤ 係長級のWG

➤ 情報審査会に諮る

・ 加えて、HPに個人情報が含まれると、個人情報保護審議会を経る必要も生じる。

➤ ヒアリングから審議会まで2か月要する。その後1か月で個人情報保護審議会となる。

・ 9/6朝までには申請資料を出せると思う。(ハイズ)

・ 技術相談を申請フォーム作って、WEBで受け付けることも可能。公募ファクトリーを活用する。(ハイズ)

➤ 手間軽減に寄与しないようなので、提案書等と同様に個別に受け取ることとする。

・ 9月末時点で構成を完了させる必要があるとの理解でよいか(ハイズ)

➤ アクセシビリティチェックが必要になると理解している。そのためには、9月末までに構成を確定させる必要がある。そのため、どこに、どんな情報を記載するのかを早急に固めたい。なお、文言の調整は以後でも可。

➤ R元年時点ではアクセシビリティの話はなかった。(ハイズ)

- 10月から構築作業に着手し10月中に完了するスケジュールでよいか。(JRI)
 - そのとおりである。11月からアクセシビリティチェックを開始する。(ハイズ)
 - 英語サイトが必要。(ハイズ)
 - 英訳につきどういったスケジュール想定とするべきか。(JRI)
 - 文言を組み込んだうえで、アクセシビリティチェックが必要である。従い、9月末に翻訳会社に依頼し、1週程度で英訳してもらい、10月の構築作業に入れ込みたい。
 - 早速英訳を手配する。(JRI)
- ・ 次回打ち合わせは、9月15日とする。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/9/10 (金) 09:30~10:30
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [REDACTED] (記)

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字：名古屋市のアクション（宿題）

青字：JRI のアクション（宿題）

1. バリアフリーにおける最低要求水準について

- バリアフリーにおける最低要求水準を現時点では保留にし、提案を見てから判断するようなことはできないのか。
 - 審査基準に記載されていない事項で審査・選定したこととなり、訴訟になるリスクがある。望ましくない。(JRI)
- バリアフリーにおける最低要求水準については、パタン3の現状想定通りのタイミングで問題ないだろう。ただ、応募者が多い場合に、評価員の負担が大きくなってしまうことが懸念である。
 - バリアフリーにおける最低要求水準と絞り込みは実施における思想が別である。切り分けて考えるべきだろう。(JRI)
- パタン3にした場合、全ての提案が事業にふさわしくないと判断され、バリアフリーにおける最低要求水準対象になった時に、その後、再公募しようとしたとき、タイトになる可能性が高い。(JRI)
 - 評価員による審査まで審査結果は確定しないにせよ、そのような状況になりそうであれば、市として事前に察知できるのではないかと考えている。問題ないだろう。
- 提案書を評価員に見せるタイミングについては十分に検討する必要がある。JRIとしては提案に対する先入観を排除する意味でも、提案書類の再提出後に初めて評価員が提案書を確認するというのが望ましいと考えている。(JRI)
 - 懸念は理解するが、評価員が早期に提案書を確認したがる可能性もある。また、技術相談の過程で評価員の視点も必要になる可能性がある。
 - 承知した。提案書受領後に審査員・技術相談員双方に提案書を提示することを想定する。また、提案書受領後に、審査員・技術相談員会を実施することを想定する。(JRI)

2. 事業者の同行について

- 一部の事業者から、プロジェクトマネジメントや昇降設備の設置、ゼネコンとの調整を自社で実施するのが難しく、何とかならないかとの打診があった。市として対応方針はあるか。(JRI)
 - 契約範囲を製造・納品をしてしまってもよいのではないか改めて検討を行っている。公募条件が厳しく、熱意のある事業者が参画できないような事態は避けたい。
 - 了解した。そのような公募条件とする場合、各種調整や申請手続きを市側でマネジメントする必要があるので留意いただきたい。(JRI)
 - 附帯的な影響も含めて、庁内で改めて検討を行う。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/9/15 (水) 09:30~11:00
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [] 記

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字：名古屋市のアクション（宿題）

青字：JRI のアクション（宿題）

1. 名古屋市様からの情報共有

- 昨日市が送付した総務課チェックしたバージョン(9月14日版)と本日 JRI の指摘・コメントを見比べながら修正を進める予定である。
- 明日総務課、明後日契約管理課と打ち合わせ予定。公募資料としては、そこで一旦最終化できると考えている。
 - 明日の本会議で本事業の質問が出される予定であり、今後のスケジュールの見通しもその議論の内容によって影響を受ける。
 - 10月いっぱいバリアフリー有識者会議の先生方に個別説明回りをする。また、10月中旬に評価員・技術相談員会を行う。これらの過程の前には公募要項等を一式固めるつもりで現時点では動きたい
 - 過年度整理してきた観点の蒸し返しはできる限り避け、公募内容を固める方向で調整したい。バリアフリーにおける最低要求水準の話は追加する。

2. 公募資料の確認

① 公募要項の修正ポイント

- 公募書類間の関係について公募要項上で整理する予定である。(JRI)
 - 了解した。
- 提出書類の体裁や部数を整理した、提出書類の記載要領を作成することは問題ないか。(JRI)
 - 様式集という書類タイトルの変更については慎重に検討するべきであるが、記載要領を追加することには問題ないだろう。内容については今後の確認とする。
- 今後、技術相談、技術対話、階段体験館の利用の調整等に関するロジスティクスについて整理し、公募書類に追記していく必要があるだろう。(JRI)
 - 技術対話や階段体験館の利用に関しては、希望があった場合はそれに対応して書類を出していくという形で問題ないのではないか。
 - 参加申込後のやり取りについては、個別にやり取りするという形で問題ないだろう。一方で、技術相談に関しては、日程調整や会議の方式について事前に整理し、公募書類にて取り纏めていく必要があるだろう。(JRI)
 - ロジまわりの論点については改めて JRI で整理して案を提示させていただく。(JRI)
- WEB会議システム (ZOOM) の活用については、事前に書類に取りまとめて置いた

方が良いのではないか。

- 技術相談における活用については公募要項等に記載しておくのが望ましいと考えているが、それ以降の活用に関してはコロナの流行状況を踏まえて対応するようにしたいと考えている。(JRI)
- 了解した。その方向で問題ない。
- P7 の動線に関する記載は削除でよかつたのか。(JRI)
 - 問題ない。
- P10 の評価員・技術相談員会の開催目的及び、この会議体に技術相談員が入っている主旨はどういうことか。(JRI)
 - 評価員と技術相談員の間で意見交換等のやり取りが必要になるとの考え方あり、追記している。
- P12 について、「公募説明会に関する質疑」は、「技術公募に関する質問」と統合してもよいか。(JRI)
 - 問題ない。
- P18 のバリアフリーにおける最低要求水準については、明確化しなければならないと考えているがどうか。(JRI)
 - 同様の認識だが、どのような基準で足切りを行うのか、事前に十分な検討が必要と考えている。
- 提案数が多いときに負担は大きくなるが、提案の絞り込みはしない方針で考えている。
- P31 の記載内容は、以前の 11-4 から変更していないつもりである。
 - 了解した。(JRI)
- P33 について、公募の参加者名や企業名は公開する予定か。(JRI)
 - 公開しない予定である。
- P33、37 について、NDA の範囲を明確化する必要があるのではないか。(JRI)
 - 基本的に公募上知り得た情報は全て NDA の対象にすべきと考えている。
 - リーガルチェックなども含めて確認を進めたいと考えている。(JRI)
- 別紙 4 は公募資料のどこに関係づけられる資料の想定か。(JRI)
 - 1-4 に関連付ける形で入れてはどうか。
 - 了解した。(JRI)

② 要項別紙の修正ポイント

- 別紙 1 について、階段体験館利用の前後で名古屋市同席のもとで確認を行う旨を追記する。
- 別紙 2 について、③についても「破ってよい・超えて良い」というわけではない。その主旨は伝わるように記載を調整してほしい。
- 基礎部分については基準外が提案されると厳しい。ただ、木造部分は厳しい条件をしていることもあり、調整の余地があると考えている。竹中工務店との調整事項は必要である。
 - 竹中との調整のうえで負担方法のラインを見定めるのではないかと考えているものの、公募要項を公開する段階でそれを整理しきるのは困難である。
 - そもそも、新技術導入に係る補強は竹中が実施する整理になっている。そのため、基準をオーバーするような提案について、失格にするのか、選定はし

たうえで導入ができなかつたという扱いにするのかは今後検討である。荷重だけ条件を超えている場合は現時点では「協議」とし「失格」とするは記載を避けたい。

- 承知した。ただし、「協議する」というニュアンスで記載した場合、この箇所を理由に失格にはできないことをご理解いただきたい。(JRI)
- 観覧計画にも関係してくるが、木造天守閣に何人程度収容できるかを改めて認識する必要がある。車いす用のスペースが設けられている事とも関連するが、避難困難者の避難をどの程度配慮しているか、またその避難を実現するためにどの程度避難困難者を城内に同時に受け入れられるかを相談する必要がある。この点は名古屋市で整理をする。
- その他の部分について文章を整理して、再度提示を頂きたい。

③ 公募要求水準の修正ポイント

- 障害者団体への資料確認は11月上旬までには完了させる予定である。
 - 了解した。(JRI)

④ 審査基準の修正ポイント

- バリアフリーにおける最低要求水準の記載を追加したが、点数等をどのように明示するかは今後検討する。
 - 「バリアフリーの観点」が最重要な要素である。さらに言えば、この観点でふるいにかけて構わないという感触すらある。
 - 9月14日版では「4-7 審査」の箇所に足切りの内容を追記している。確認してほしい。
 - ◆ バリアフリーにおける最低要求水準は、「バリアフリーの観点(8項目)について●%以上の得点を得ている事」という基準を設けることも考えられる。相対評価のA~Eと連動することも一案である。
 - ◆ ただし、バリアフリーの観点ですべてCという提案は受け入れられない。8割は難しいにしても、足切り点を高めに設定したいと考えている。
 - ◆ 最低要求水準に要件を追加してハードルをあげるのではなく、あくまで加点要求水準の中で高いハードルを求めることが理解した。(JRI)
 - ◆ 委員の心理上中間の評価であるCが多くなる。その意味では現在の足切り案の200点もかなり高いハードルと思っている。委員からの意見も聞いたうえで検討するべきと考える。(JRI)
 - ◆ 検討する。
- バリアフリーにおける最低要求水準の具体的な記載、プロセス図への追記については市内部で検討する。

⑤ 様式集の修正ポイント

- 資料を確認しておいていただきたい。(JRI)

3. 今後について

- 今後9月末に向けて公募要項を確定させるスケジュールで想定する。

➤ 承知した。(JRI)

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/9/29 (水) 09:30~11:20
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [] 記

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字:名古屋市のアクション(宿題)

青字:JRI のアクション(宿題)

1. 名古屋市様からの情報共有

- ジョシュア氏以外は技術相談員・評価員は回り切った。バリアフリー検討会委員及び福田先生を残す形。10月中には回りきる予定である。
- 情報開示委員会にハイズ作成資料の修正版を提出し、受理された。情報審査委員会のプロセスが開始された点共有しておく。
- PR動画の件、早急にもじやとの打ち合わせをセットする。その際に説明会動画についても相談をしたい。
 - 説明会について、市の職員の英語が通じるかが懸念される。市内部でも英語を話せるセクションがいるためそこと調整をする。概要が分かるような資料を作成頂きたい。
 - 先日、説明会動画の構成案を送付している。そちらもご確認いただきたい。

2. 公募資料の確認

① 公募要項の修正ポイント

- 階段体験館の予約については2週間前までに連絡をもらえば市としては問題ない。
 - 承知した。そのように現在記載されているので変更は不要と考えている。
- 「2-3. 事業期間」の「公募開始」の箇所には、「名古屋市広報にて周知」、「技術公募HPを公開」と記載しておく。
 - 公募説明会、という会があるように読み取られないよう修正を全体的に書ける。「公募説明動画の公開」に修正する。
- 知的財産権の記載は現状のままとする。

② 様式集について

- 正本・副本の部数は原稿案のものとする。
- 参加提出書類に付番し、審査申請書類の提出の際に付番番号を入れてもらうようする。
 - 参加提出書類全体の鑑・審査申請書類全体の鑑を差し込んでほしい。
- オンラインでの資料投影は任意とするが、使用予定の資料は原則提出させることとする。

③ 要項別紙の修正ポイント

- 別紙1について、見学後の確認については、見学者等も立ち合いのうえ、市が確認するという整理にしてほしい。
 - 承知した。そのように修正する。(JRI)
- 別紙2について、修正内容は了解した。内容精査するが、現時点では特に異論ない。

④ 公募要求水準の修正ポイント

- 修正方針について、異論ない。
- P3 区分「バリアフリー（有用性）」の内容について「地階から」と追記している点についてはどうか。
 - 趣旨としては理解できる。「7 地上または地階から大天守の1階までの昇降ができること」と修正するかもしれない。市内部で確認する。
 - 承知した。(JRI)

⑤ 審査基準の修正ポイント

- バリアフリーにおける最低要求水準については全体フローチャート図中に入れたらほうがよいか。(JRI)
- あまり絞り込みをしたくなく、表現しなくて良いのではと考えているところである。
- そもそもコンセプトに関わる話であるため、しっかりと審査基準及び全体フローチャート図に記載したほうがよいのではないか。(JRI)
 - 承知した。記載する方針とする。
- 全体フローチャート図の修正の原図も共有してほしい。また、公募要項にも全体フローチャート図があるのでそちらにも反映をしてほしい。
 - 承知した。(JRI)
 - 全体フローチャート図中で、追加の記載の場所としては、どこになるか。
 - 書類審査、プレゼンテーション審査の後になるものと想定している。(JRI)
 - 承知した。

⑥ バリアフリーにおける最低要求水準について

- 論点1、2とも、JRI 整理の方向性で異存ない。論点2については、評価員に諮ることとする。

3. 公募概要について

- コメントを確認し、返答する。
 - 10月後半から、英訳作業に入る予定である。(JRI)

4. 今後について

- 公募要項等の概ねの確定版については、本日議論を踏まえ、明日中に一式送付する。安井は、別紙2のチェックバックを明日にまでに実施のうえ、JRIにコメントしてほしい (JRI)
 - 了解した。(安井)
 - 30日以降は、修正が発生する可能性が低いと理解している。従い、作業の必要があれ

ば、貴市から指示があるものと理解している。(JRI)

- 評価員・技術相談員会及びBF検討会について、最新のスケジュールを追記した。公募前は、これ以外で追加される想定はないとの理解でよいか。(JRI)
 - 評価員・技術相談員会をもう一度実施するような話もあるが、スケジュール踏まえると現実的には難しい。従い、提示の内容からの変更はないと受け止めてもらって構わない。
 - 承知した。となると、10月末の評価員・技術相談員会は、評価基準を議論し、内容を確定させることを主に実施する必要があると理解した。(JRI)
 - 公募開始後については、具体的な想定がない。BF検討会は公募期間中においては実施しない。公募期間後、募集結果を報告する程度の想定。
 - 承知した。評価員・技術相談員会については、実施回数・時期と、各回アジェンダを提案させてもらう。BF検討会は、評価員会との役割分担が難しくなるため、貴市整理のとおり公募期間中の実施は避けるべきと考えている。(JRI)
- 公募説明会の映像収録に使用する資料作成は、市にて実施するべきか。
 - 市長が説明するか否かなど、弊社では判断が付かないことが多いため、市にて検討してほしい。骨子を検討いただければ、肉付けのところでご支援させていただくことは可能。(JRI)
- HP製作について、ハイズへの修正指示は10月1日までのところでお願いしたい。翻訳原稿の作成等の観点から、10月4日では間に合わない懸念がある。(JRI)
 - 了解した。10月1日までに対応する。

5. その他宿題について

- 提示の内容に異存はない。

以上

打合せ記録

件名	天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時	2021/10/13 (水) 09:30~11:00
目的	打合せ	場所	WEB会議
出席者			
[名古屋市] 坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [記]		

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字：名古屋市のアクション（宿題）

青字：JRI のアクション（宿題）

1. 名古屋市様からの情報共有

- 議会において公募期間等の説明を行ったのだが、それが報道された。そのため、現在障害者団体等に個別に説明している。

2. 建設業法許可のない公募参加者の取り扱い

- 今回提示したスキームは、業法許可のない企業、個人全般に適用可能と考えている。
(JRI)
- 本体工事の請負契約を変更するスキームが現実的だと思われる。本体工事は建築一式であり、建築一式で請け負ったうえで、機械器具設置工事業の許可取得企業に下請負すれば問題ないはず。(JRI)
 - 同様の認識である。
- 今回提示資料に沿って竹中と協議を進めてほしい。打ち合わせへの同席は可能なので、必要に応じて指示いただきたい。(JRI)

3. 公募開始後の主要論点（進め方・ロジ関係）

① 公募開始後のスケジュール

- 質疑回答は、公募要項の内容に対する質問、つまりはロジ的な内容に対する質問を想定している。技術相談会は各公募参加者が提案しようとしている技術に対する質問を想定している。(JRI)
 - それぞれ同タイミングで2回実施し、これらが完了後、4月22日に審査書類を締め切る。(JRI)
 - その後1週で事務的な調整を終え、ゴールデンウイークに入る想定である。(JRI)

② 内容を確認する。

- 技術相談会
- 技術相談員の日程確保の役割分担は保留とする。市内部で調整させてほしい。
 - 事前・当日のロジが固まり次第日程確保に動く必要があると認識してほしい。(JRI)
- 参加提出書類の前に、技術相談の意向を確認する様式を追加する。事前資料の送付・通訳についてこの追加資料にて追記する。(JRI)
 - 技術相談の通訳は先方負担とする。
- 公募要項は会議終了後に最新版を送付する。
 - そちらに技術相談の本日の確認事項等を反映するので、市にて内容を確認いただきたい。(JRI)

- ・ 技術相談員に公募参加者名を明らかにしない形で技術相談を進める方法を検討したい。
 - 会社名を言うことを禁ずるように伝える、Zoomの画面オフ等の対策が考えられる。弊社内でも対策を検討したい。(JRI)

4. 今後について

① 映像制作

(PR 動画・公募説明動画について)

- ・ PR 動画は名古屋市の指摘通り進めて欲しい。
- ・ 公募説明動画の作成期限については、従前公募開始までということだったが、1月中旬まで期間がいただけことになったとの理解でよろしいか。(JRI)
 - そのとおり。
- ・ 公募説明会のため作成する資料は、プレゼン用のPPTと原稿の2点を想定している。11月19日までの作成することが可能だが、弊社作業(資料のドラフト作成)は11月5日まで終わらせ、以降2週で貴市にチェックいただくスケジュールを想定しているが、支障ないか。(JRI)
 - 問題ない。ドラフト作成後の加筆、修正作業については、市にて対応することを基本とする。
- ・ 公募説明動画の投影資料は公募概要の説明項目を中心に構成する。(JRI)
 - 説明時間は20分、ナレーション原稿は6000字のイメージである。説明する内容としては、公募要項に沿って構成する見込みである。(JRI)
 - 承知した。PR動画において「本事業の趣旨」は詳しく述べて説明している。そのような内容については公募説明動画においては軽めに説明を流して構わない。
- ・ 「木造天守の復元」自体の考え方については市の説明が必要と考えたが、本事業においてはあまり触れない方向と理解した。(JRI)
- ・ 映像もじやとの契約変更も本日以降進めて構わない。

② HP 製作

- ・ ハイズよりHPの確認依頼が来ている週中の確認をお願いしたい。(JRI)
 - 紙で出力して確認する必要があるため、PDFやPNGファイルで送っていただけないかハイズに依頼している。締め切りについては了解した。
 - 了解した。JRIからもハイズに連絡しておく。(JRI)
- ・ アクセシビリティレポート関連は仮ということでスケジュールに追記している。(JRI)
 - 了解した。
- ・ お知らせ・イベント文言については、公開時点ではなしということで問題ないか。公開時点で含まれるものについては、アクセシビリティチェックの対象になる。(JRI)
 - 問題ない。(JRI)
- ・ 翻訳案が上がってきており、一部の固有名詞について質疑が出ている。明日までにハイズに資料を流す必要があるので、企業名などが間違っていると問題になる可能性があるので、確認いただきたい。(JRI)
 - 了解した。

③ 次回打ち合わせ

- ・ 10月27日については、技術相談会準備等で多忙となる可能性があるため、実施しないことと

する。

- 次の週に実施することも考えられるが、既に市の予定が埋まっているため、この週の実施も見送る。
- 従い、定例は、1回スキップし、11月10日に実施することとする。
- 念のため今週中は10月27日午前の予定を押さえたままとするので、もし実施の必要瀬があれば、連絡いただきたい。
- 次回打ち合わせの主要アジェンダは、技術相談会のロジ方法確認（本日の継続）、ワークシヨップでよい。

④ その他（公募資料）

- 審査基準の価格の審査区分における「市況との比較検証等」とはどういった意図か。市況との比較は可能なのか。
 - 修文検討する。（JRI）

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/11/10 (水) 09:30~12:20
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者 [名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川 技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [REDACTED] 記

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字：名古屋市のアクション（宿題）

青字：JRI のアクション（宿題）

1. 名古屋市様からの情報共有

- 市議会・経済水道委員会にて本事業全般の議論があった。11月の補正予算は固まっているが、公募開始については新聞報道もあり、公募開始の方向性が固まった状況である。
- 特に評価員・技術相談員会について、今後、議事録は会議後2, 3日で提出いただきたいたい。当日・翌日を速報で頂き、確定するのは5, 6日後でも構わない。

2. 公募要項等の直近修正点（確認）

- 公募説明動画の記載とも関わるため、早急に内容を固めたい。最終的な公募要項の内容を踏まえ、公募説明動画を修正することとする。
- 公募開始前にヒアリング事業者に公募開始を周知するとともに、参加の感触について伺いたい。メールベースのやり取りで構わない。
 - 後程共有する。
- NDAはLAチェックを早急にお願いしたい。
 - 承知した。（JRI）
 - 関連して、11月末に公募資料全体のLAチェックを行う予定である。市の決裁・ご確認が一通り済んでからと考えている。（JRI）
 - 公募説明動画に記載するため、公募資料は早急に固めたい。評価員会・技術相談員会の内容を反映させ、NDAのLAチェック後であれば、庁内の説明を進められる。その後、公募資料全体のLAチェックと移行したい。

3. 公募開始～提案締切までの主要論点

① 全体スケジュール

- 特に議論なし。

② 日別スケジュール

- 質疑応答の回答案の作成を日本総研で対応する。基本的には日本総研で作成し、公募外の内容等を名古屋市に依頼するイメージである。（JRI）
 - 1月31日の市とコンサルの分担確定の後は市とJRIで並行対応できる。それが見えるような形でスケジュールを作成してほしい。
 - 承知した。基本的には回答案作成①で大方回答案作成は済ませ、回答案作成②は確認作業と考えている。（JRI）
- 質疑回答を受けた公募要項等の変更はあり得るということか。
 - 必要があればという認識である。（JRI）

- 回答案②が技術相談会と重複しているが、質疑回答の大筋は技術相談員会前に固めるようスケジュールを組んでほしい。
 - 承知した。(JRI)
 - 技術相談会で質疑回答についても聞かれるはずである。市と JRI にて質疑回答の共通認識を固めておきたい。
 - そのような前提で進めるイメージである。(JRI)
 - 例えば、公募後の契約の話等は名古屋市で作成するようなイメージだろう。前払い等の支払いに関しては市にて先に回答を作成してよいかもしない。
- 質疑回答も含め日本語で質疑回答をするイメージであった。(JRI)
 - 国際公募である事を踏まえると、少なくとも公募概要に関わる部分等は、「質疑回答」の概要として英訳をすべきではないか。
 - 承知した。回答の時期は日本語だけ先に公表し、英語を後からということも可能だろう。(JRI)
- 質疑回答の 2 回目も 1 回目と同様の流れで進める。GW 前に一定処理しきるイメージである。(JRI)
 - 3 月 10 日以降予算委員会が始まり、3 月 23 日まで続く。その後、技術相談員会があるので、3 月 10 日～3 月 23 日の 2 週間で諸々の修正対応ができるよう準備してほしい。

③ 技術相談

- 技術相談員会について、山田委員は既に 2 月 9 日～16 日は出られないと連絡を得ている。
- 質疑について JRI にてとりまとめ、対応する技術相談員を決めたうえで、各委員に展開するところまで含めて、1 週間程度で対応できると思っている。(JRI)
- 技術相談時間が 8 時からというのは仕方ない。ただ、アメリカ等の企業については個別相談となるだろう。
- 技術相談において、参加者は名乗らないことを公募要項にも明記する。(JRI)
- 技術相談員会で権利関係の意見が出た。技術相談員のアドバイス等によって生まれた新技術の知的財産の扱いをどのように考えるか。
 - 技術相談員は評価側の立ち位置ととらえ、知財の配分が渡る扱いに違和感がある。技術相談員が分配という経済的メリットを求めるのであれば、評価員会と技術相談員会の役割を明確に分ける必要が出てくる。(JRI)
 - 技術相談員に知財の権利を与えない方向であれば、「事務取扱」にてその旨を明記しておく必要がある。「権利はすべて公募参加者に属する」としていることを踏まえ、追記・修正をする必要があるかもしれない。
 - 技術相談員が「知財による配分」を望んで、技術相談員の承諾を受けていることが懸念される。
 - 技術相談員の知的財産絡みの扱いについては、市内部にて対応を検討する。
- 技術相談は正式な議事録は作成せず、エクセル回答を市と JRI で相談しつつ作成するのが良いと考えている。(JRI)
 - 了解した。

4. 提案締切～最優秀者選定までの主要論点

① フロー

- 特に議論なし。

② 日別スケジュール

- WS、竹中協議等を経ずともBCJへの確認することに支障はないか。
 - 支障はない（JRI）
 - そうならば、BCJ確認は5月に実施することとする。そうすれば、8月頃には、コメントが受領できるはず。
 - ワークショップは、開催までの準備に時間を確保したい。本事業はワークショップが山場と言っても過言でない。準備の中で、議員に説明する必要も出てくるだろう。
 - 天守閣ワーキングを5月くらいに開催予定である。竹中工務店との協議はそのちが望ましい。
 - 承知した。BCJ確認を先行し、その後、天守閣ワーキングが、評価員・技術相談員会と同時期に開催される想定とする。WSは、その後の6月に実施するスケジュールを作成する。（JRI）
 - 9月に実施するのは評価員会のみであるので、修正すること。

③ ワークショップ

- 対象者はそのとおりだが、障害者と高齢者をそれぞれ分けて実施する。これにより2回実施することとなる。
 - 目的について概ね問題ないが、提案のあった昇降技術をよりよいものにするための意見交換の場、といった趣旨を加えてほしい。

④ 評価員・技術相談員会

- 特に議論なし。

5. 今後について

① 業務スケジュール確認

- 公募概要はいつから英訳可能か。
 - 内容は確定しているため、この打合せのうちに着手してよい。確定版を後ほど送付する。
 - 対応する。（JRI）
- 公募要項等については、説明会動画との関係もあるので、来週早々から決裁に着手する。そのため、急ぎ内容を精査したい。特に、評価員・技術相談員会からの意見を踏まえた修正が必要。
 - 承知した。対応する。（JRI）

② 映像・HP製作

(HP製作について)

- HPについては、ハイズを交えて議論を来週お願いしたい。
 - 打ち合わせの目的は何か。アクセシビリティチェック後、市としてはその指摘を反映するしかないのではないか。何を確認するための打ち合わせが不明である。
 - スケジュール通りに進めるため、意思決定プロセスや課題等について把握する趣旨と聞いている。（JRI）
 - ◆ 意思決定プロセスという意味では、市の上層部まで確認は取っている。万が一大幅な変更がある場合には、公募開始時期を調整することも含めて再検討になるとされている。その意味では、スケジュールをこれ以上後ろ倒しにするつもりは市にもないことを伝えるスタンスで臨めばよいか。
 - その認識で構わない。JRIを介してではなく、ハイズ・協力会社含めて市と直接意思統一をしたい趣旨である。（JRI）
- HP公開の遅れに伴い、公募開始が1月中旬になることもあり得ると認識していたが、12月

22日に間に合いそうなスケジュールに見える。

- ハイズが無理をしつつ、スケジュールを調整してくれているものと認識している。公募開始時期も含めて、今後のスケジュールを相談したい。(JRI)
- 1月のどの時期かは調整中だが、公募開始が1月中であることは我々の中で意識統一したい。
- 次回の打ち合わせでは、12月に公募開始する前提で、12月中に発生し得る府内リスク等を当日伝えていただきたい。そのリスクを踏まえ、全体のスケジュールを再検討・点検する。
- 今後、市とHPが直接やりとりするというよりも、日本総研としてスケジュールや流れを把握するように努めて欲しい。
 - 承知した。(JRI)

(映像について)

- PR動画について、公募開始時期だけが未定である。それ以外は確定している。ナレーションではその点は触れないため、PR動画の本ナレーションあてを進めてもらって構わない。
 - 承知した。もじやとその点含めて意識統一をする。
- 説明会動画について、映像の確認をするタイミングが欲しい。
- 説明動画の投影資料について、文字が多い印象である。例えば、ページを分ける、説明項目ごとに表示をするアニメーションを入れる等の工夫ができないか。
 - 例えば、p17の加点要求水準部分。読み上げ原稿に合わせて画面の表示内容を拡大する、もしくはパワポを分けるといったイメージである。説明部分を網掛け表示し、目立たなくする工夫も一案である。
 - ◆ 必ずしも、ページ数を増やす、文字を大きくするオーダーではない。
 - 趣旨は承知した。もじや様とも相談し、期間内におさまる条件で可能な方法を模索する。ただし、19日の確認後、どの程度修正が吸収できるかは確認する必要がある。19日までにPR動画のように「仮ナレーション版」を作る可能性も含めて、一度もじやと会話する。(JRI)

③ 次回打ち合わせの議題について

- 特に議論なし。

6. その他（前回アジェンダなど）

① 建設業法許可のない公募参加者の取り扱い

- 竹中工務店は、昇降技術に関するリスクを負担することを懸念しているものと理解している。(安井)
 - 建設業法許可を理由とした対応可能性については、竹中工務店と打ち合わせし、対応策を見出すほかない。(JRI)
 - 調整する。いずれにせよ、昇降技術が導入されないと、木造化が果たせない。
- パタン3として、天守工事と別途、名古屋市がサブコンに発注することを見込めないのか。サブコンの下に、メーカーに入ってもらえばよい。(安井)
 - サブコンと随意契約を行う理由がないので、難しいと思われる。

② バリアフリー検討会議について

- 12月10日に開催予定のバリアフリー検討会議は対面開催となった。JRIからスタッフを派遣することは可能か。

➤ 想定と異なっていたこともあり、対応を検討させてほしい。(JRI)

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/11/24 (水) 09:30～11:00
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川 技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) []記

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字:名古屋市のアクション(宿題)

青字:JRI のアクション(宿題)

1. 名古屋市様からの情報共有

- 公募要項等の最終化作業をしている。今週中には少なくとも確定させ、決裁を回す予定。
その後、庁内決裁手続きを進める予定。

2. 公募開始～提案締切までの主要論点（進め方・ロジ関係）

- 質疑回答について、日本語版と英語版の公開は同時にするのが一般的か。完成次第順次公開といった進め方は考えられるか。
 - 公平性の観点から、同時に公表するのが良いだろう。(JRI)

3. 提案締切～最優秀者選定までの主要論点（進め方・ロジ関係）

①別紙2について

- 竹中やBCJの作業スケジュールについては、提案件数に応じて影響される可能性が高い、提案数をみつつ調整する必要があるだろう。
- 書類審査とプレゼンテーション審査は別日に実施するという理解でよいか。
 - 書類審査は評価員が各自で下見・仮採点を実施するものとし、プレゼンテーション審査は別日に実施するのが一般的である。(JRI)
- 技術提案締切から改善提案締切までの期間が短いように感じる。改善提案締切を一週間後ろにずらすのもあり得るのではないか。
 - 審査期間と改善提案期間のどちらを長く確保するのかという、設計思想次第だろう。現時点では、余裕を持った審査期間を確保する考えである。(JRI)

②ワークショップ

- 事務局が公募参加者が提出してきたものに手を加えることに違和感がある。公募参加者に初めから提案の方向性を定めるような工夫をしたい。事務局で作業をしないように工夫をしたい。
- 公募概要に追記する形で、高齢者・利用者がイメージしやすいような図案を添付したほうがよい。
 - 様式3-3が自由度が高い状態になっている。記載の方向性を絞り、提案が定まるよう工夫したい。(JRI)
- ワークショップのやりかたの提案は。集客の方法、メディエーターの配置に提案が欲しい。
 - 当日の仕組みやり方を所管部局から聞かれている。

- 資料作成の上で回答する。落としどころをというよりは、各技術に関する説明を行い、意見を募る形になるかと思う。会議の誘導は日本総研で行うが、各々が意見を持つ形となるかと考えている。
 - ◆ p 9 の内容を詳しくした形で準備をする。時間配分、仕切りの仕方等の進め方が分かる資料を作成する。対面実施を前提とした検討をする。
 - ◆ 今月中に資料をもらい、老人会に月一回集まる際に説明するスケジュールも考えられる。スケジュールとして可能か。なければ 1 月。
- 高齢者については団体がないこともあり、意見を求める手法が懸念されるところである。
- 意見を求める場なのか、質疑回答まで含めるイメージか。
 - 提案に関する質問は答えられない。原則回答しない形となるかと思う。公募内容の立て付けについて議論があれば回答と思っている。(JRI)
 - 会議の趣旨等も含めて説明しつつ方向性を定める。
 - ◆ p 7 の目的。ネガティブチェックという書きぶりは改める。

4. 今後について

① 業務スケジュール確認

- 10 月時点の公募内容は既に BCJ に送っていて、その際には特段意見はなかった。基本的な方向性はご理解頂いていると理解している。ただし、スケジュール等変更している点もあるため、最終版は先方に共有する。
- 竹中工務店への公募資料の共有は市から行う。
- 公募要項全体をリーガルチェックにかける予定はない。主な観点を抽出してリーガルチェックを掛ける予定。ちなみに、主なものは既に実施している。(JRI)
- JRI 内の体制として、公募要項の変更箇所のチェック・担当者間での周知の仕方をもう一度検討してほしい。
- 名古屋市から本日中に最新版を受領し、弊社が来週（12 月 1 日）を目途にファイナル版を作成・送付する。市も並行して進めるがその期間の修正内容はメールで受領する。(JRI)
 - また、公募資料の変更は、締め切りの 3 営業日前を目途に「履歴付きの公募資料」、もしくは「ワードにまとめる」形で、まとめて送付いただきたい。五月雨式に連絡が来た場合、抜け漏れのリスクが非常に高くなる。(JRI)
 - 承知した。

② 映像・HP 製作

1) 映像

- 1 月中旬納品に向けて進めている。(JRI)
 - 追加確認事項としては、音声 BGM と声の調整がある程度である。特に問題ない。
- 英訳は 12 月 10 日までかかる。(JRI)
- 12 月 3 日で日本語仮ナレーションの作成の予定である。英訳へのスケジュールの影響があるが、ここで仮ナレーションを確定させる必要あり。大きな変更はこの時点で出し切るべき。ここで確定しないと後ろ倒しへのスケジュールの影響がある。(JRI)
 - 承知した。
- 2 回目の日本語仮ナレーション版第 2 稿はここで英訳用の確定が必須である。(JRI)
- ナレーションで根本に関わる修正が入る内容及びタイミングは、

- 「事業期間」について確定するかどうか。
- 「参加資格」を全部読む必要があるかどうか。
- 審査基準の説明が少ない。時間をかけるバランスが、参加資格に時間をかかっており、目的、概要の説明はしっかりとっているが、要求水準、審査基準などが薄く感じる。読み原稿が詰め切れていない。その点が根本的な修正かもしれない。
 - 公募に際しての説明動画を鑑みると参加要件に力点を置いている。(JRI)
- 12月3日時点が重要である。(JRI)
- 審査基準の情報が薄いのは、意図があったのか。
 - 重要パートでオーソライズが必要箇所であり、あえて詳細に原稿に入れなかつた。(JRI)
- 映像時間の20分の縛りはあるのか。
 - 特にない。他事例で20分程度だったため。
- 12月20日の本番・ナレーション収録は日本語、英語両方か。
 - その通り。

2) HP

- アクセシビリティレポートの翻訳スケジュールについては本日(11/24)から着手可能との連絡が事業者(ハイズ)からあったので、順次着手する。(JRI)
- HP内の表記チェックを実施したので確認してほしい。修正必要と認識している。(JRI)
- 名古屋市にて、書面で確認・修正後、名古屋市からJRIへ送付してほしい。受領次第事業者(ハイズ)に修正指示を出す段取りとする。(JRI)
- JRIからの指摘以外に修正事項があれば早めに連絡してほしい。(JRI)
 - 承知した。
- 公募要領の表現とHPとの表記の揺れとを統一をすればよいことだと理解した。

③ 次回打ち合わせの議題について

- 次回は12月8日(水)09:30~とする。
- 様式集が、WordとExcelで別れているのが気になる。資料として統一いただきたい。
 - PDFとしては一体で示し、編集可能版としてWordとExcel版各々示すことも考えられる。一度社内で検討する。(JRI)
- WSの件と公募資料の修正は、12月8日を待たずに返答を頂きたい。
- 素材集はJRI内・書類間で共有を頂きたい。

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2021/12/22(水) 09:30~10:30
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川 技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [](記)

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字：名古屋市のアクション（宿題）

青字：JRI のアクション（宿題）

1. 名古屋市様からの情報共有

- 12月16日付で、松尾局長が退任して副市長に就任している。後任に折戸局長が就任している。新局長に対し、事業の現状を説明する必要がある。

2. スケジュール

(公募スケジュール)

- 各タスクについては、12月公募開始を前提としたスケジュールと、ほぼ同等期間を確保したスケジュールとした。大きく異なるのは、技術対話の改善提案締め切り後～評価員会（最終）までの期間の設定である。従前、短いとの指摘をいただいていたので、是正している。論点としては、①1か月程度確保した技術対話の改善提案締め切り後～評価員会（最終）までの期間を他のタスクに振り分けるのか、②公募開始日を弊社想定の3/25から後ろ倒しするのか、の2点と理解している。（JRI）

- ▶ 公募開始日を3/25とすることは現実的でないと認識している。年度内としたいものの、府内動向等を踏まえ、検討する。
- ▶ 最優秀者の決定日については提示の通りでよい。
- ▶ 公募開始から提案受付まで4か月と説明していたため、審査申請書類締切日を7/29としたいと考えている。しかしながら、こうすると以降のスケジュールが厳しくなるものと理解している。公募開始日含め、スケジュールについては、市にて整理する。
- ▶ 公募要項等のファイナル版の提出については、27日を想定している。（JRI）
- ▶ 公募要項等については市に提出してもらい、市にてスケジュールの修正を行う。そのうえで、JRIに内容を確認してもらうこととする。
- ▶ 承知した。（JRI）

(映像制作)

- 1月末までに公募要項等に加え、ナレーション原稿、PPTを固めることが前提のスケジュール。そのうち3月に入ってからナレーション収録を行う。納品は3/25だが、公募要項等公表日に合わせて、前倒しは可能。（JRI）
 - ▶ 了解した。概ね問題ないと思うが、詳細は持ち帰って確認させていただきたい。なお、関連資料のデータがエラーとなっていたので、再送してほしい。
 - ▶ 承知した。（JRI）

3. ワークショップの進め方

- 市と WS 参加者が対立するような構造を作らないのが重要と考えている。グループを小分けにして実施するなど、特定の集団の意見が強くなるようなことがないようにしたいと考えている。
 - その方向性で問題ないと考えている。資料としても違和感はなかった。(JRI)
- 今回の WS でもファシリテーターを入れる想定か。
 - ファシリテートを行うのかは検討が必要と考えている。様々な意見を 1 つにまとめるというのがファシリテートである。今回の WS の目的と照らせば、ファシリテートは不要ではないかと考えている。(JRI)
- 高齢者の WS と障害者の WS でやり方を変える必要はないのか。
 - 基本的には変える必要ないと考えている。高齢者と障害者で出てくる意見は正反対になるような可能性はあるが、WS のやり方自体を変えるような必要はないだろう。(JRI)
- WS で公募参加者にプレゼンや説明をしてもらう必要はないのか。WS の参加者から質問が寄せられた場合に、我々では回答できないことを懸念している。
 - 現在の WS は、あくまで参考意見の聴取を目的としており、公募参加者にプレゼンや説明を求めるのは、負担が大きいこともあり想定していない。公募参加者に出席を求めるのであれば、WS を審査プロセスに盛り込むといった検討も必要になるだろう。(JRI)
- WS の資料や説明がわかりづらいため、WS 参加者が不満を持つようなことはないのか。
 - その可能性はどのような資料の作成や提出を求めた場合でも排除できないと考えている。公募参加者が作成する資料がわかりやすいものになるように、最大限の誘導は行うつもりである。(JRI)

4. その他

(HP 製作)

- 修正内容を確認し、本日中に JRI に連絡する。
- 公募説明動画の公表タイミングを若干調整し、HP の公開までハイズに対応いただけるよう調整する予定である。(JRI)
 - 従って、ハイズとの契約は原契約でいったん終了し、追加分については別途契約とする。現時点では焦って契約を結ぶ必要はなく、公募説明動画作成等を年明け後に進めた上で、2 月以降でハイズと契約内容の調整をする。(JRI)

(次回お打合せ)

- 次回は、1 月 5 日 (水) 10:00～とする。
 - 公募要項の公表後は 2 週間に一回の頻度を見直し、イベントに合わせて設定することとする。3 月には提示したいと考えている。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2022/1/5(水) 10:00~11:00
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川 技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [REDACTED] (記)

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字：名古屋市のアクション（宿題）

青字：JRI のアクション（宿題）

1. 名古屋市様からの情報共有

- 2月市議会に向けて予算要求が始まっている。また新局長への本事業の経緯の説明も進めている。
 - 最も忙しくなるのは2月下旬から3月上旬。

2. 作業状況のご報告

(公募要項等)

- 公募要項等の確認結果について、打ち返しのタイミングを後程ご連絡頂けるとありがたい。また、映像制作との関係で1月中には修正作業を終える必要があることは認識頂いたい。(JRI)
 - 相談することはもちろんあるが、先ほどの要求水準への指摘もあくまで情報共有であり、公募要項等の修正は基本的には市にて対応をする。
- 協議期間中に事業者を交えた会議体は持たない想定でよいか。(JRI)
 - 契約協議期間中は事業者に会議体の参加等は求めず、開発期間以降でその対応をする整理としている。協議期間中に事業者に求めるのはあくまで報告・資料提供程度にとどめる予定である。

(評価員・技術相談員会における指摘事項と対応状況(第3回))

- 特段議論なし。

(HP 製作)

- 2021年12月23日のやりとりでHP製作については一旦対応を完了している理解でよいか。よろしければ、その旨をハイズとも共有する。(JRI)
 - 承知した。
 - 本日付で納品確認が完了したと認識した。次の動き出しの想定は2月半ばあたりからと想定している。ただそれは公募要項等の大幅な修正がない前提であり、修正がある場合はスケジュールの余裕を見る必要がある。(JRI)

(映像制作)

- 1月末の公募要項及び公募説明動画資料の確定が直近の目途となる。PR動画についてもそのタイミングでの修正反映となる。ご認識おき頂きたい。(JRI)

3. 直近のタスク

(公募の国際的な周知方法の整理)

- 周知方法について、明日以降メール等で報告する形でよいか。(JRI)

- 問題ない。

(事業者に対する公募要項の公表時期周知)

- 公募開始が3月末ごろに変更になったということは事業者に連絡してしまってよいか。(JRI)
 - 細かな予定や変更内容について伝えることはできないが、開始時期が3月末ごろに変更になったことについては連絡しておいてほしい。
 - 了解した。(JRI)
- 事業者にはもともとの公募開始時期が12月末ごろだというのは周知していたのか。
 - 周知していたはずである。(JRI)
 - 了解した。そういうことであればなおさら連絡をしておかなければならぬだろう。

4. 次回打ち合わせの議題について

- 本業務の成果品について、早めに構成などを提示いただきたい。年度末は、公募開始ということもあり、立て込むことが予想される。
 - 次回の打合せまでに可能な範囲で作成して提示する。(JRI)
 - 名古屋市としても、契約変更後の業務仕様書を提示する必要があることは理解している。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2022/1/19(水) 09:30~11:00
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者 [名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川 技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) []記

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字:名古屋市のアクション(宿題)

青字:JRI のアクション(宿題)

1. 名古屋市様からの情報共有

- 特段動きはない。予算要求のプロセスを肃々と進めている。

2. 公募要項等について

- 市内担当者間で確認作業及び修正作業を進めている。
- 技術開発について、令和5年度の予算規模を認識しておくべきとの意見があった。提出様式の中で、「令和5年度の予算規模が分かる資料」の提出を求めることとした。
 - 上記に関連し、公募要項中の文章の精査を進めている。具体的には、公募要項「2-4. 昇降技術開発」において、昇降技術開発の考え方を詳しく記載するとともに、図表を追加する予定。
 - 令和5年度予算としては、開発契約である「8,000万円」を5等分(開発導入契約まで5年間を想定)した「1,600万円」をR5年予算として計上することも一案。(JRI)
 - 公募の結果提案される「一番長い契約期間」及び「一番高いR5年の予算」を取り急ぎ計上し、最優秀者が決まり次第調整することとする。
- 今週中に公募要項をまずは固め、他の資料の反映に移る。来週には一度公募要項の修正版をJRIにお送りする。
 - 公募説明動画の資料修正はJRIにて対応する準備がある。準備でき次第ご指示いただきたい。
 - 1月中に事務作業は終え、2月には庁内決裁に入る。
 - 公募説明動画の作成は公募内容が固まってから動き出すべきである。その点も踏まえてスケジュールを検討いただきたい。(JRI)

3. 公募開始の周知

(関心事業者に対する周知)

- 周知文案を作成したがどうか。(JRI)
 - 事業者側の参加意欲を可能な範囲で確認したいが可能か。
 - 了解した。参加意欲を確認するような一文を追加する。一方でメールの場合、意欲が高くとも返事を頂けない可能性もあるので、留意いただきたい。(JRI)
- 周知文案における公募開始時期の記載は「4月中旬」とすること。
- 内容がまとまった段階で送付するようにしたい。修正した内容を送ること。確認でき次第、各社に送信いただきたい。
- 送付先は何社程度の想定か。

- 国内 10 社、国外 10 社程度の合計 20 社程度になるとを考えている。(JRI)

(国際的な周知)

- 周知の方法については、公募開始までにできることを考慮し、再検討する必要があるだろう。
- 国内への周知については、市から地元の新聞局等を中心に依頼する予定である。
- 国外への周知については、外国人記者クラブへの対応が中心になるとを考えている。(JRI)
 - 外国人記者クラブの所管等はどこになるのか。
 - 外務省の所管になるだろう。過去連絡した際には好感度だったと記憶している。(JRI)
- 記者会見を開催する場合、記者からの質問も想定される。情報管理の面で課題が生じる可能性があるが問題ないか。(JRI)
 - やむを得ないと考えている。
- 展示会等のイベントでフライヤーを配布することも想定されるだろうが、あくまで補助的なものになるだろう。可能性がある展示会等について調査を行う。(JRI)
- サイバスロンについては、必要に応じて、今後改めて連絡し、協力してもらえるか確認する。(JRI)
- IEEEへの対応については、難しいのではないかと考えている。当初の想定と公募の立て付けが大きく変わってしまったこともあり、窓口となっていた福田先生への協力依頼が難しくなっている。

4. 次年度スケジュール

(公募 PR 動画作成)

- 公募に関して作成する動画については、作成後の修正後が困難である。公募要項がしっかりと固まってから作成に移るのがよいだろう。
- 動画作成に関するスケジュールについては、公募要項関連のチェックを市で済ませたタイミングで併せて連絡を頂くのがよいだろう。(JRI)
- 公募開始を 4 月 18 日としているが、どういった理由からか。(JRI)
 - 2 点理由がある。一つは市から JRI へ支払う予算が確保されているタイミングであること。もう一つは、障害者団体連絡会に公募開始前に公募の内容を説明する期間を確保するためである。
- 評価員・技術相談員会の開催時期がずれたり、市長の決裁が遅れたりすると、最優秀者決定が予定より遅れてしまう可能性が高い。1 月以降の最優秀者決定となっても市として問題ないか。(JRI)
 - 12 月を目標として動くが、遅れてしまうのもやむを得ないと考えている。市内で確認する。
 - 評価員・技術相談員のスケジュールをできる限り早期に抑えておくことで、リスクを減らすように努力すべきだろう。また、公募開始後のスケジュールについては、流動的に調整したり、ラップさせたりすることも必要になるだろう。(JRI)
- お盆等のタイミングでも、公募に関する対応が必要になるとを考えている。JRI としては問題ないか。
 - JRI としては問題ないが、竹中工務店や評価員・技術相談員は対応が難しいだろう。(JRI)
- 開発費用については債務負担行為とする想定か。(JRI)
 - 令和 5 年度に債務負担行為として、予算を確保する予定である。

5. 納品

- 一見した限りは特段問題ない印象。
 - 「(10)技術開発進捗確認支援」については、技術相談も含めての仕様だったと理解している。公募開始時期が遅れ、技術相談が来年度になるため、3年度の仕様から(10)は削除となる。
- 2月中には市に一式を送付し、ボリューム感を市にて精査のうえ調整を進める。
 - BOXの利用可否はJRI内で確認する。(JRI)

6. 次回打ち合わせの議題について

- 次回定例会議は、2月2日(水)0930～とする。
 - この打ち合わせで公募スケジュール感を固め、映像制作担当に着手指示を出すこととしている。(JRI)
 - その他、国際的な周知方法、納品関係の精査を予定している。(JRI)
 - 公募概要の件も間に合えば相談したい。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2022/2/2(水) 09:30~11:00
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川 技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [] (記) [安井建築設計事務所] []

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字:名古屋市のアクション(宿題)

青字:JRIのアクション(宿題)

1. 名古屋市様からの情報共有

- 公募要項等の準備状況については後程記載。

2. 公募要項関係(確認)

(公募要項)

- 参加資格について府内質問が出た。その処理が済めば公募要項は固まる見込みである。本日、その件を契約監理課と相談する予定。
 - その他、審査基準の用語の調整、様式集の様式番号の入れ替え等の作業が残っている。
 - まずは公募要項を固めたのち、公募説明動画等の修正を済ませ、その後、公募要項以外の公募資料の修正対応に入る。
- 日本総研に送付するバージョンは修正反映済みのバージョンとなる予定である。
 - JRI 内での確認も折を見て内容確認を行うこととする。(JRI)

(公募スケジュール)

- 公募開始時期については局長・副市長には説明済み。
 - 承知した。公募開始時期を踏まえ公募スケジュールを引き直す。(JRI)
- (公募概要)
- 公募要項が固まった後、公募概要も内容を精査する。その際、英訳の必要性を確認する。(JRI)
 - 公募概要についても、公募要項の府内決裁の過程で局内確認を行う予定である。

3. 公募に関する情報発信(確認)

(公募 PR 動画作成+公募説明会動画作成)

- 公募説明動画について、2月4日までに資料を作成する見込みが立った。
 - 承知した。その旨踏まえ、もじや様とスケジュールを調整する。(JRI)
- PR 動画について、まず、JRI がファイナル版絵コンテを入手する。公募要項が固まった後、JRI にて修正を反映し、名古屋市に確認いただくように進める。(JRI)

(HP 作成)

- 公募要項の決裁を終える見込みを2月下旬とし、3月から HP 作成も動けるように契約締結等の準備を進める。

4. 國際的な周知方法（報告）

(外国人記者クラブ)

- 日本特派員協会に連絡を取った結果、プレスリリースについては対応可能とのことだった。A4版で2~3枚の資料を日本語・英語版で作成し、配布するという形になるだろう。(JRI)
- 記者会見についてはハードルが高く、なんらかの実績を報告する形で記者会見を開催するのが通常とのことである。そのため、本事業においてはプレスリリースを中心とした周知を行うことになるだろう。(JRI)
- プレスリリースについては名古屋市名義で作成することになる。市の広報課マターになるかと思うが、JRIでも資料の作成に協力することは可能であり、英訳等についてはJRIで実施する想定である。(JRI)
- 過去のプレスリリース資料やテンプレートを共有いただきたい。JRIでプレスリリースの案を作成することも可能である。(JRI)
 - 了解した。提供する。
- プレスリリースを実施した場合、それは海外において確実に報道されるのか。
 - プレスリリースをどう扱うかについては、プレスリリースを受け取った記者次第である。(JRI)
- プレスリリースが報道された場合、報道された事実を捕捉することは可能か。
 - プレスリリースを踏まえ、市に取材や連絡等があれば捕捉することができるが、それ以外の場合については、報道されたかどうかを補足するのは難しいだろう。(JRI)
- まず市で記者会見を行い、その結果を踏まえて外国人記者クラブへプレスリリースを行うことになるだろう。4月中の対応になるのではないかと考えている。(JRI)

(学会)

- イベントでは、どのような形で周知を行う想定か。
 - ポスターの掲示やリーフレットの配布が中心になるだろう。ブース等の出展については、書面以上の提供情報がないため意義が乏しいだろう。(JRI)
- 今回紹介のあった事例では1~4番、10番がイメージに近いが、開催時期が公募開始とずれているものが多いのが気になる。
 - 4月以降のイベント等については現時点での公表が少ないため、今後追加調査を行う必要があるだろう。(JRI)
- 日本エレベーター協会などの協会団体に連絡をとり、周知を依頼したり、機関紙等への掲載を依頼するようなことは考えられるのか。必要に応じて依頼料等を払う必要もあると考えている。
 - 国的な周知については、名古屋市からの発表等で充足されるのではないかと考えており、国内の機関紙に掲出する意義は乏しいのではないかと考えている。
- 國際的な周知という観点では「第8回 CareTEX 東京'22」や「2022国際ロボット展」が適しているのではないかと考えている。他に国際的なイベントがないか改めて調査いただきたい。
 - 了解した。リストにおいても国際的なイベントかどうかがわかるように列を追加する。(JRI)
- 広報・周知に移れるのは、本事業の公募に関する議決が下りた後になる想定である。
 - 事前に周知に関して、イベント主催者等にアポイントを取ることは問題ないか。(JRI)
 - 問題ない。

- 了解した。3月26日以降のイベント等に絞って改めて調査を行う。(JRI)
- ポスターの掲示等がメインになるのであれば、できる限り多くのイベント等を対象に依頼するようしたい。建設機械等の展示会も含めてリサーチいただきたい。
- 今回の打合せ内容を踏まえ、リストのアップデートを行い、3月上旬をめどに提出する。(JRI)

5. その他

(納品)

- 現在2月末に向けて納品に関する作業を進めている。内容の確認もかねて、2月末に一度電子納品を行う想定である。(JRI)
 - 了解した。

(次回打ち合わせの議題について)

- 次回の打合せの議題については資料の通りである。貴市の状況によっては、次回打合せはスキップすることも可能である。(JRI)
- 公募に関する提出資料とその対応事項のチェックリスト等を作成いただきたい。
 - 了解した。対応する。(JRI)

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2022/2/16(水) 09:30~11:00
目的 打合せ	場所 WEB会議
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、高橋主幹、金子主査、早川 技師、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [](記) [安井建築設計事務所] []

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字:名古屋市のアクション(宿題)

青字:JRIのアクション(宿題)

1. 名古屋市様からの情報共有

- 2月15日(火)に2回目の契約審査会を実施した。参加資格と評価員の選任理由について審議を行った。
- バリアフリー検討会議・堀越座長と昨日会談した。バリアフリー検討会議の日程調整を随時進める。
 - 公募概要の修正をお願いしたい部分があるので、後程連絡する。
 - 承知した。(JRI)

2. 公募要項関係(確認)

- 公募要項のフィードバックは本日・明日にはJRIに送付する。修正履歴も可能な範囲で元に戻したうえで送付する。
 - 承知した。(JRI)

3. 公募に関する情報発信(確認)

- (PR動画・公募説明会動画制作)
- 公募説明動画は今週中に確認する予定である。
 - 2月16日～21日の日本語版仮ナレ第二稿チェックをしっかりと確認し、英語版第二稿及び日本語版仮ナレ第3稿のチェックは最終確認程度にすませることとする。議会と重なることもあり、今回の日本語版仮ナレ第二稿チェックをしっかりと実施する。
 - 技術相談・技術対話等、外部の有識者が関わる日程はある程度幅を持たせて記載する方向で調整したい。
 - 公募開始日も若干前後がある可能性がある。資料には残しつつ、アナウンスは除くような工夫もしたい。
 - PR動画は公募要項最新版と照合し、修正点をJRIにてまとめ、市にて確認いただく。主にスケジュールの修正となる予定。(JRI)

(HP作成)

- 公募要項のバックを受けた段階でハイズに依頼する作業分量が判明すると考えている。公募要項を確認でき次第、ハイズに依頼をかける想定である。(JRI)
- HPの運用を行う再々下請けに機密情報を渡す場合、委託に関する申請書を出す必要がある。事前協議等も必要になるのでご承知いただきたい。
 - 了解した。HPの運用を行うさくらインターネットへの委託は4月以降になるという認

識である。(JRI)

4. 国際的な周知方法（報告）

(プレスリリース資料のひな形)

- ・ プレスリリースのひな形の送付は定例後すぐに送付する。
- ・ プレスリリースはどのような流れになるのか。
 - 県の記者クラブに投げ込むのと同じタイミングで、外国人記者クラブにプレスリリース資料をメール等でお送りするようになると考えている。なお、メール等は市からお送りいただくことになるのでご承知おき頂きたい。(JRI)

(事業者への周知について)

- ・ 関心事業者への公募開始時期の報告等については、公募開始文案の確認状況はどうか。(JRI)
 - 確認次第送るのでそのタイミングで事業者に送付すること。
- ・ 事業者に連絡する公募開始時期は4月中旬ということで確定してよいのか。(JRI)
 - それより遅れると間に合わないと考えている。確定でよい。
- ・ 事業者への連絡の際には、納期等のスケジュールを理由に事業者の興味を損なうことがないように配慮いただきたい。また、事業者からの反応については、議会等での報告も考えているので、適宜報告いただきたい。
 - 了解した。関心をつなぎとめるのが重要だと考えている。また、連絡が来次第報告するようとする。ただし、メールベースのやり取りである以上、議会で報告ができるような返信があるかについてはわからないので、ご承知おき頂きたい。(JRI)

5. その他

(納品)

- ・ 2月末までにボリューム感を確かめるための仮納品をする予定である。確認いただき、追加等に対応し、3月末に本納品を行う。(JRI)
- ・ 変更仕様書を作成した。後程調整をお願いしたい。公募説明会が公募説明動画に変更になった等、契約の節目での協議文章の作成を進めている。こちらも後程、調整をさせて欲しい。
 - 承知した。(JRI)
- ・ 3月10日～16日からは来年度予算の委員会が始まる。特に来週は市の動きが悪くなることご理解いただきたい。
 - 3月17日の定例会議にて、公募開始後のスケジュール等について議論する場をもちたい。
 - ❖ 公募開始前までは問題ない。気になるのは、公募開始後の最優秀者が選定後の流れ、基本協定期の進め方（竹中工務店との関係の整理）、開発契約の流れである。
 - ❖ 早ければ6月議会で説明が求められるため早回りして準備を進めたい。
- ・ 納品・確認検査の際に名古屋市に往訪頂くこととなる。その日程は定例会議とは別途調整とする。

(次回打ち合わせの議題について)

- ・ 3月2日の定例はキャンセルとする。3月16日の定例は17日0930～に延期する。

➤ 主に公募開始後のスケジュールに関して議論することとする。

以上

打合せ記録

件名 天守閣の昇降に関する新技術の公募支援業務委託	日時 2022/3/17(水) 09:30~11:00
目的 打合せ	場所 対面(階段体験館)・WEB
出席者	
[名古屋市] 梅田主幹、坂田技師	[日本総合研究所](以下、JRI) [] (記) [安井建築設計事務所] []

特段断りがない限り、名古屋市の発言

赤字:名古屋市のアクション(宿題)

青字:JRI のアクション(宿題)

1. 名古屋市様からの情報共有

- 来年度予算が議会に承認された。
- 4月11日週に議会日程をセットしている。そこで本事業に関する説明をしたのち、公募が開始できる見込み。スケジュール変更は今のところない予定である。
- 12月に最優秀者を選定し、その後2月の議会で開発契約の予算を審議する。それに向けて11月に開発契約に関する予算案を提出する。
 - 公募の際に提出される提案書に見積もりを含めているので、それを参考に予算案は作成する。
- 3月29日のバリアフリー検討会議はJRIも参加してほしい。議事録をはやくまとめるようご協力いただきたい。4月5日1300-1500に評価員・技術相談員会にもJRIは参加してほしい。Zoomで開催の予定である。

2. 弊社の実施体制について

- [] の退職のあいさつ。
- 新任の紹介。
- 市にも体制の変更があり、専任の主査がつく。
- JRIの体制の変更を記録として残すようにしていただきたい。

3. 国際的な周知方法(報告)

(外国人記者クラブへの告知)

- 外国人記者クラブへのプレスリリースは、市長の公募開始発表後とする。
- 後程記者クラブへの投げ込み文章・フライヤー等は後程確認いただきたい。

(学会等)

- 議会が公募直前まである事から、事前周知期間がとりづらい。4月18日後に積極的に周知をしているような見せ方となるよう調整をお願いしたい。正確には市長の発表後である。
- 展示会はブース単位で購入する為費用が掛かる。学会のポスター展示は無料だろう。従って基本的には学会が広報の中心になる。(JRI)
 - 名古屋城HP等も活用しながら広報したい。

4. 次年度について

- 質問回答に関してJRIのバックアップをおねがいしたい。

- 承知した。(JRI)
- 年間スケジュール表を共有したのでご確認いただきたい。(JRI)
- 今後も議会対応等により、工程の遅れ等が発生する可能性はあるが、次年度は職員の増員も想定しており、よりスムーズに対応できるようになるのではないかと考えている。

5. その他

(公募要項関係)

- 質疑対応に関してはJRIとしても十分な実績があり、質問数が多かったとしても特に問題は生じないと考えている。(JRI)

(納品)

- 今年度は、今後納品作業に専念していく予定である。(JRI)

6. 次回打ち合わせの議題について

- 次年度業務へのスムーズな引継ぎを行うために、資料を作成する想定である。(JRI)
- 次回打合せは30日9時半より。この前の時間に検査を実施予定。

以上